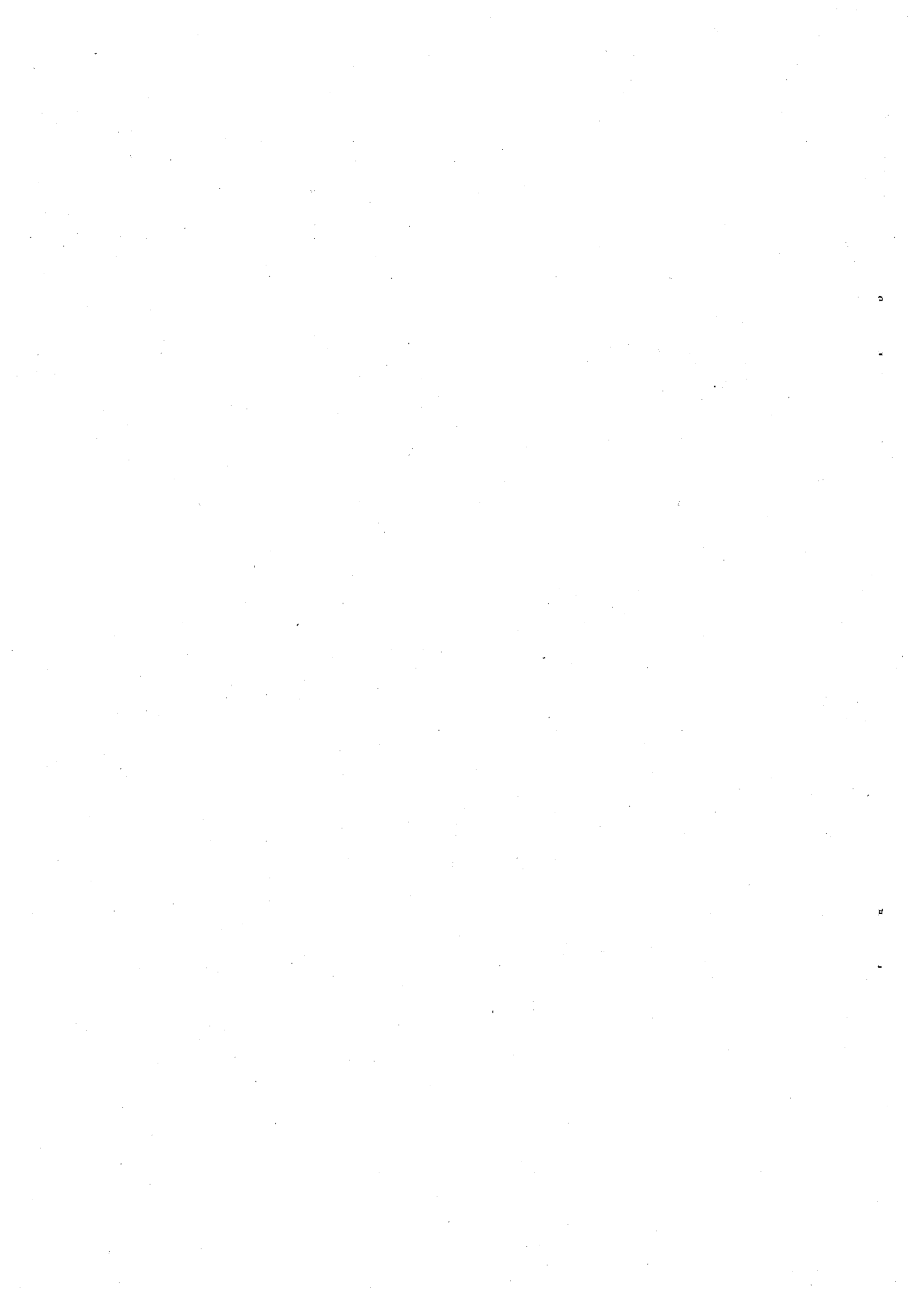


地域アクションプランの 平成25年度上半期の進捗状況等について

・安芸地域	1
・物部川地域	17
・高知市地域	33
・嶺北地域	45
・仁淀川地域	57
・高幡地域	69
・幡多地域	101



安芸地域アクションプランの進捗状況等について

H25.9.13

安芸地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

農業分野のナスに関しては、生産者との勉強会などを中心に系統出荷率の向上や土佐鷹販売量の増加等の取組みを行い、ユズに関しても、栽培農家に対して新植・改植を推進する勉強会や講習会を開催するほか、果汁等の安定供給と販路の開拓などに向けた協議等を行っている。

水産分野では、3月末に完成したシラス加工施設の本格稼働が始まったが、ここ数ヶ月間の安芸地域での水揚量が低調なこともあり、他産地からの買い付けなど原魚確保が課題になってきた。

林業分野のうち、特産林産物の土佐備長炭については、製造・販売の拡大に向けて、製炭窯の増設や後継者の育成などに動きだしている。

商工業分野では、東洋町の海の駅の整備は、7月に建築工事に着手するとともに、海の駅運営協議会を立ち上げ、地域の活性化に向けた拠点ビジネスとしての運営の検討が始まった。

観光部門では、平成27年度に安芸地域9市町村で開催する地域博覧会については、県や市町村、観光協会など関係団体をメンバーとする組織での基本計画づくりや同博覧会の推進組織の設立準備に動きだしている。また、室戸ジオパーク拠点施設は、平成26年度内の整備に向けて基本設計等が行われている。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>二つの日本一を有する産地機能の維持・強化</p> <p>■No.1 ナス産地におけるまとめづくりとブランド化の推進（室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・JA土佐あき</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>安芸市の系統出荷率：60%</p> <p>土佐鷹作付面積：80ha</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>安芸市の系統出荷率：58%</p> <p>土佐鷹作付面積：40ha</p> <p>[取組状況]</p> <p>○系統率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域園芸戦略推進会議まとめづくりチーム会の開催（3回） ・各地区反省会、現地検討会の開催（5ヶ所、延べ50人へ情報提供） ・安芸出荷場での営農相談の実施（3回、延べ203人へ情報提供） <p>○土佐鷹の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐鷹普及推進協議会の開催（2回）とJA・園芸連・県で農家を個別に巡回（5月）（栽培面積は、前年度並みの26.8ha） ・園芸研究幹事会等の開催（2回） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐鷹の更なる推進（特に安芸集出荷場管内のまとめりの形成） <p>⇒地域園芸戦略会議等を通じた系統率の向上</p>

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 ユズを中心とした中山間振興 (室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>青果出荷受入量: 400t 加工仕向け量: 4,670t A品果皮受入量: 安芸600t、北川150t 加工品販売 ユズ茶: 160百万円 化粧品: 52百万円 ポン酢他ユズ加工品: 2,070百万円</p> <p>H25 到達点</p> <p>青果出荷受入量: 400t 加工仕向け量: 4,500t 加工用果皮 (A・B品): 安芸840t、北川60t 加工品販売 ユズ茶: 160百万円 化粧品: 52百万円 ポン酢他ユズ加工品: 2,070百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新植改植の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・講習会 (適期防除、5回)、勉強会 (適期防除・カラーリング出荷拡大、7回、延べ132人参加) の実施 ○将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会等での課題抽出と共有化、活動計画の検討 (北川村6回、馬路村1回) ・検討会立上げに向けた調整 (地域座談会の開催、準備会の設置) ○ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 <ul style="list-style-type: none"> ・県版 HACCP 取得に向けた指導 (JA土佐あき、JA馬路村) ・加工用果皮出荷拡大・品質ワンランクアップ勉強会等開催 (12回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ果汁の販売強化、ユズ商品の販売拡大 ⇒取り組みの着実な継続
<p>木質バイオマス活用の促進</p> <p>■No. 8 木質バイオマス活用の促進 (安芸市、芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・(有)安岡重機 ・高知バイオマスファーム ・高知東部森林組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ペレット生産: 1,500t/年 ボイラー設置: 100基</p> <p>H25 到達点</p> <p>ペレット生産: 700t/年 ボイラー設置: 102基</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペレット製造ラインの再整備後の稼働状況の検証 4~7月の生産量: 183t ・ペレット製造ラインの補修用部品の確保 ・ペレットボイラー導入に係る補助事業の事業計画書の作成 園芸用ボイラー 31台 (安芸8、芸西11+12 (H24繰越)) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域需要に対応するペレット製造量ラインの拡充 ⇒設備の補修や増強等による生産の能力の向上など

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>水産物のブランド化への取組</p> <p>■No. 10 キンメダイのブランド化に向けた取組 (室戸市、東洋町、奈半利町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸東水産業改良普及協議会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>魚価単価: 1,200 円/kg</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>室戸市場のキンメダイ取扱量: 2.3%、1,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協関係者等に対する試食会の実施 (3回) ・キンメダイのフィレの流通の検討 (冷凍からチルド状態へ) ・大手量販店との商談会の開催 (冷凍加工品の評価を得た) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H24 の開発商品の改良 <ul style="list-style-type: none"> ⇒取引先や大手量販店などからのアドバイスに対応 ・冷凍加工品の開発と地元消費の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ⇒地元調理師会と連携したPR活動等の継続
<p>■No. 11 水産加工の促進と販路の拡大 (室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)タカシン水産 ・高知県漁協 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>加工品販売額: 12,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>加工品販売額: 8,600 万円</p> <p>取引件数の継続: 県外 10 件、県内 12 件</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工事業者のFBC フード・ビジネス・クリエイターの受講 ・新商品「おとめまぐろ」を大手回転ずしと取引契約 (17t) ・工業技術センターによる工場の衛生管理状況の確認と衛生講習の実施 ・水揚量が少ない低価格魚 (エチオピア) を地元事業者が加工し販売する準備に着手 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大口で安定的な取引先の確保 <ul style="list-style-type: none"> ⇒既存商品の改善、新商品の開発への取組と営業活動の継続
<p>■No. 12 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上 (安芸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業 ・安芸漁協 ・安芸おじゃ娘 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>水揚げ額: 201,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>水揚げ額: 96,000 千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス水揚げ状況の聞き取り (須崎市の漁協) ・事業者 (安芸水産) から状況等の聞き取り (5/13、6/24) ・4～6月の原魚購入 (約 21t、950 万円) ・高知県地域産品商談会参加 (安芸水産) (5/28) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工原魚の確保に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ⇒他県の情報収集と原魚購入の検討 ・商品力、販売力の強化と新たな販路確立 <ul style="list-style-type: none"> ⇒商談会、見本市等への参加とPR活動の継続

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>地域の1次産品等を活用した商品づくりと販路拡大</p> <p>■No. 3 ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大（東洋町）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・甲浦の果樹仲間</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>商品アイテム数： 4品 濃縮ジュース販売量： 5,000本</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>商品アイテム数： 3品 濃縮ジュース販売量： 3,000本</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売戦略の策定（6月） ・大阪方面の業務用酒販業者への営業活動（6/17、4社） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売戦略に基づいた販路開拓 ⇒ターゲットに対する営業活動の促進 ・新商品の開発と生産体制の構築 ⇒海の駅運営と連携した新商品の検討
<p>■No. 4 「安田（あんた）の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発（安田町）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・安田町 ・生産者</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>売上高： 100百万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>売上高： 25百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知龍馬空港でのキャンペーンの展開（4/1、4/21） ・県外百貨店での高知フェアに出展（銀座三越4月、大阪高島屋5月） ・まるごと高知の報告会・商談会へ参加（6/13） ・オープン1周年記念イベント（6/22） ・製造量 4月（11,600個）、5月（4,100個）、6月（4,200個） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入した製造機械での本格生産に向けた大口の販路開拓 ⇒地産外商公社等と連携した首都圏での商談の実施 ・原材料の安定確保に向けた仕組みづくり ⇒安芸地域全体を視野に入れた原材料の選定と調達方法の検討
<p>■No. 5 エディブルフラワーを活用した新商品の開発と販路の拡大（芸西村）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・第2 香南くろしお園</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お花ソルト」のH24年度末時点の販売店舗数（20店舗） ・新たに京都の農業法人と取引開始（6月～） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お花ソルト」「お花オイル」の知名度アップと販路拡大 ⇒現在の製造・販売体制の継続

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 6 白下糖の生産の拡大と新商品の開発 (芸西村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸西村 ・芸西村製糖組合 ・生産者グループ 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>サトウキビ収穫量： 40t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>サトウキビ収穫量： 38t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産拡大のため検討会を実施 (製糖組合、芸西村、県) ・生産拡大のためサトウキビ栽培地の現況確認 (5月) 生産者：18戸、作付面積：7反 ・脱葉機の導入決定 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の増加対策 ⇒生産者等への働きかけ ・新商品の開発に向けた検討 ⇒かっぱ市との連携による新たな加工品の検討
<p>■No. 14 酒粕等を活用した新商品の開発と販路の拡大 (田野町、安田町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国部品㈱中芸工場 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額： 42,000千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外での物産展への出展 (4/24～6/25、5回) ・県内での物産展等への出展 (4/27) ・県内商談会、支援制度の紹介 ・急速冷凍機、食器消毒保管庫の導入 (5月) ・新商品の試作品づくり ・商品展示・PR (5月～6月、産振シンポジウム) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採算ベースを確保するための売上増加やコスト低減対策 ⇒県内量販店等の取引先の確保に向けた営業活動 ・酒の実ヴィネグレットソースの製造事業者廃業 (H24. 12. 28) ⇒中芸地区商工会と連携して、事業継承者の確保
<p>■No. 24 海の駅を拠点とした地域振興 (東洋町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>海の駅来場者数： 180,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>新施設の早期竣工</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築工事の着手、(7/3、工期：～12/27) ・海の駅運営協議会の設置 (8/28) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な施設運営と施設で提供する飲食メニューや加工品作り ⇒運営協議会を立上げ、検討・協議に着手

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>広域的に連携した観光の推進</p> <p>■No. 19 安芸地域における広域観光の振興（安芸地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>圏内主要施設訪問者数： 140,000 人 県内宿泊者数： 150,000 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>圏内主要施設訪問者数： 125,000 人 県内宿泊者数： 140,000 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部地域博基本計画策定委員会での協議（4/24、6/7、7/23、8/20） ・県広域観光推進事業補助申請（6/7、交付決定） ・東部地域博基本計画策定委託を観光拠点等整備事業費補助金申請（6/10、交付決定） ・県観光人材研修の実施（6/13、6/14、6/28） ・県の観光アドバイザーによる研修会の実施（5/27～29） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的な旅行商品の造成、体験メニューの充実 ⇒安芸広域全体での体験メニューの更なる掘り起こしと磨き上げ ・地域博覧会の開催に向けた準備等 ⇒推進体制の構築と具体的な内容の検討
<p>■No. 20 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興（室戸市）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ジオパークガイド登録者数： 40 人 来訪者数： 70,000 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ジオパークガイド登録者数： 50 人 来訪者数： 70,000 人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(情報発信・国際交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもサマースクール募集開始（6/15～7/17） ・リョーマの休日エリアキャンペーンの登録協議（7/31） <p>(拠点施設整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計委託を県観光拠点等整備事業補助金交付決定（6/24） ・基本設計委託契約（工期 ～10/31） <p>(サイト整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元協議（1回） ・「海の駅とろむの日（10月6日）」記念イベントに向け協議（8/13） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド育成とジオツアーの造成 ⇒ガイド養成講座の周知とツアー関係者との連携 ・拠点施設整備 ⇒多くの参加者を集めるための市民への周知と意見収集

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 22 岩崎弥太郎と地域食材を活用した観光の振興 (安芸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市 ・生産団体・グループ ・民間事業者・加工業者 ・安芸市観光協会 ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会 ・安芸「釜あげちりめん井」楽会 ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・JA土佐あき婦人部 ・入河内大根のこそう会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸釜あげちりめん井を出展しPR活動を実施 (3/31～5/6 内原野つつじまつり、4/7 食1グランプリ、 5/18・19 グルメフェスタまんのう) ・PRキャラバンへ参加 (6月 福岡・広島) ・安芸釜あげちりめん井楽会総会の開催 (6/6) ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会総会の開催 (5/28) ・入河内大根のこそう会総会 (5/23) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市の観光振興に向けた推進母体の育成 ⇒安芸市観光協会の機能の見直し ・岩崎弥太郎生家に関する観光新商品開発 ⇒現状把握と有望素材の磨き上げ
<p>■No. 26 中芸地区における広域観光の推進 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸広域連合 ・中芸観光協議会 ・中芸商工会 ・観光関連事業者等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部地域博基本計画策定検討委員会への参画 (4/24、6/7) ・観光案内や地域観光キャンペーンの実施 (4/26・27 イオンモール、 5/3～6 田野駅屋臨時案内所) ・中芸観光協議会総会 (5/30) ・土佐旅セミナー研修受講 (6/13・14、6/26) ・中芸食に関する検討会の開催 (6/27、7/18) ・中芸観光ガイドスキルアップ研修会の検討 (8/5) ・中芸地区ファンづくり検討会 (8/5)、黒笹慈幾の講演会 (8/27) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、事業者、行政が協働する観光振興の展開 ⇒中芸観光ビジョンの実現に向けた関係者の協働意識の醸成

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 27 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会 <p>■No. 30 世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大 (北川村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村 ・きたがわジャルダン 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ツアー客数： 1,500 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ツアー客数： 1,300 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会の開催 (4/5、5/8、6/17) ・隧道カフェの開催 (4/19) ・支線調査報告会及び通常総会の開催 (5/22) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林鉄道遺産の保存・管理・活用 ⇒国、県との協力体制を構築 <p>[目標 (H27)]</p> <p>入園者数： 65,000 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>入園者数： 60,000 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘客イベントの開催 (企画展「モネの花図鑑」(3~4月、4~5月)、ガゼニング教室(4月)、出張ガゼニング教室(イオンモール4月)、無料開放(4/19)) ・広報活動の展開 (新聞折込誌ミリカの活用) ・日帰りエリアや団体への営業活動の拡充 (四国全域、岡山、神戸) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園者増に向けた誘客対策 ⇒企画・イベントのバージョンアップと情報発信の更なる強化 ・営業体制の強化 ⇒観光協会との連携やフェイスブックの活用など多様な営業活動

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況 (結果、成果等を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 (室戸市、東洋町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭生産組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>新規就労者： 5名 共同窯設置： 4基 生産量増産： 30t/年 新商品開発： 1商品</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>新規就労者： 3名 共同窯設置： 4基 新商品開発： 1商品</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐備長炭生産組合が共同窯整備等の産振補助金採択申請書提出 (7/24 補助金審査会) ・室戸市及び東洋町の2事業体から年間活動計画を聞き取り (4月) ・新規研修生受入れ動向調査 (東洋町生産組3名、～H27) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木調達や製品の販売対策 (室戸市) ⇒原木調達や協業化に向けた検討 ・新規就労に向けて受入れる研修生の独立支援 ⇒独立に必要な炭焼窯の整備経費支援策の検討
<p>■No. 16 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化 (室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>キラメッセ楽市来場者数： 258,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>整備基本構想策定</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場拡張に係る保安林解除委託施工 室戸市予算確保 (6月補正)、委託契約 (工期：8/13～11/15) ・周辺住民への保安林解除の事前意向調査の実施 (6月) ・「楽市」機能拡張に向けた関係者 (室戸市、県、指定管理者) 検討会 (8/15) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場拡張を伴う加工施設の整備に向けた早期の整備基本構想の策定 ⇒駐車場拡張に係る保安林解除手続きの委託施行

取組	取組状況 (結果、成果等を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 イルカのふれあい体験による交流人口の拡大 (室戸市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸市 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>来場者数： 25,000 人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>来場者数： 27,000 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設リニューアルオープンセレモニー (4/14) ・海の駅「とろむ」と施設オープン感謝祭を合同開催 (4/14) ・ドルフィンプロジェクト総会で営業方針・宣伝方法等を決定 (5/26) ・リニューアル施設の告知・PRを実施 (るるぶ四国掲載、テレビ放映) ・陸上施設や体験プログラムの充実 (陸上プール、受付・更衣室・シャワー室・講習室、イルカ 2→4 頭、体験プログラムの追加) ・リョーマの休日エリアキャンペーン登録の協議 (7/31) ・「海の駅とろむの日 (10月6日)」記念イベントに向け協議 (8/13) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更なる情報発信や施設整備による来場者増 ⇒とろむエリア全体の利活用策の検討
<p>■No. 29 安田中山地区の活性化プロジェクト (安田町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター「なかやま」の開設 (4月) ・中山を元気にする会運営会開催 (4/23、5/14、6/4、総会 6/5) ・高知大学・安田町連携事業協議会 (6/5) ・旧中山小学校 (集落活動センター) の耐震診断着手 (6月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センターの円滑な運営と外部人材の活用 ⇒地域おこし協力隊員による運営支援の継続 ⇒地域おこし協力隊員の活動を通じた地域住民の参加意識の醸成

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 (東洋町)</p>	<p>・共同利用窯 4 基と運搬機材（フォークリフト）を整備し、生産・出荷体制を強化する。また、組合員の視察研修により新商品の開発や品質管理の向上を図るとともに、備長炭や産地を紹介したパンフレットを作成し、商品PRを行う。</p>	<p>18,237 (12,148)</p>

3 地域アクションプランの追加、修正、削除（予定）項目

[追加] [削除] なし

[修正]

■N02 ユズを中心とした中山間振興（室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村）

（理由）農家の収入と連動させるため、目標値と指標の見直しを行う。

■N020 世界ジオパーク認定を活かした観光の振興（室戸市）

（理由）整備を計画するジオサイトを明確化し、具体的な整備に着手するため。

4 県民参画に向けた取組

○第2期産業振興計画の周知

- ・室戸市議会全員協議会の講演
- ・地域アクションプラン事業主体の企業等訪問（室戸市、安芸市、奈半利町、田野町、安田町）

○土佐の産業おこし参加プラン募集の案内

- ・室戸市議会での説明

○産業振興計画シンポジウムへの参加案内

- ・地域アクションプラン事業者への案内（四国部品、大野倶楽部、安芸水産、JA土佐あき等）
- ・地域団体への案内（JA土佐あき、JA馬路、安芸商工会議所、中芸地区商工会等）

○土佐ビジネスアカデミーの受講への働きかけ

- ・地域アクションプラン事業者へ案内（安芸水産、一般社団法人 うみ路 他）

5 相談案件：5件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/16	商工	安芸地域の食材等を室戸市の宿泊施設や他の地域へ提供したい。
2	5/10	食品加工	田野町で生産する天日塩を利用した商品を開発・販売したい。
3	5/29	観光	岩崎弥太郎生家を活用した新規事業を創出したい。
4	6/24	水産	安芸市内でシラス加工品を使った飲食を提供する食堂を開きたい。
5	7/3	水産	深層水利用の養殖水産物（ナガレコ、アワビ）を加工商品にして販売したい。

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
2 ユズを中心とした中山間 振興 《室戸市、安芸市、安田 町、北川村、馬路村》	日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> ・新植、改植の推進への取組(H21~23) ◆県選抜システムを活用した母樹園が設置された。(安芸:東川・畑山、北川) 	<ul style="list-style-type: none"> 青果出荷へのシフト ・隔年結果及び品質低下対策 ・母樹園を活用した優良システムの普及 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新植、改植の推進
		<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来にわたってユズ園を管理する仕組みづくりへの取組(H21~23) ◆集落営農組織及び農作業受委託組織を3組織育成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな仕組みづくり ・ユズ銀行に代わる新たな労働補完体制の検討(北川村) ・(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討(馬路村) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり
		<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> (JA土佐あき) ・加工施設等の導入(H21.10) ◆JA土佐あき北川支所の搾汁施設の高度化が行われ、H21は過去にない豊作で販売に苦慮したが販路開拓により飲料企業との取引が拡大している。 	<ul style="list-style-type: none"> (JA土佐あき) ・H21大豊作による果汁販売の苦戦、生産者単価の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓
		<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> (JA馬路村) ・ユズ茶加工施設導入(H21) ◆JA馬路村がゆず茶の加工施設を導入し、販売実績が徐々にではあるが増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> (JA馬路村) ・H21大豊作による果汁販売の苦戦 ・加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上 	



項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
2 ユズを中心とした中山間 振興 《室戸市、安芸市、安田 町、北川村、馬路村》	日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき 	<ul style="list-style-type: none"> ・新植、改植の推進への取組(H21~23) ◆県選抜システムを活用した母樹園が設置された。(安芸:東川・畑山、北川) 	<ul style="list-style-type: none"> 青果出荷へのシフト ・隔年結果及び品質低下対策 ・母樹園を活用した優良システムの普及 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新植、改植の推進
		<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来にわたってユズ園を管理する仕組みづくりへの取組(H21~23) ◆集落営農組織及び農作業受委託組織を3組織育成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな仕組みづくり ・ユズ銀行に代わる新たな労働補完体制の検討(北川村) ・(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討(馬路村) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり
		<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> (JA土佐あき) ・加工施設等の導入(H21.10) ◆JA土佐あき北川支所の搾汁施設の高度化が行われ、H21は過去にない豊作で販売に苦慮したが販路開拓により飲料企業との取引が拡大している。 	<ul style="list-style-type: none"> (JA土佐あき) ・H21大豊作による果汁販売の苦戦、生産者単価の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓
		<ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<ul style="list-style-type: none"> (JA馬路村) ・ユズ茶加工施設導入(H21) ◆JA馬路村がゆず茶の加工施設を導入し、販売実績が徐々にではあるが増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> (JA馬路村) ・H21大豊作による果汁販売の苦戦 ・加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上 	

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
新植、改植の推進 青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化					→	青果出荷受入量 (H22:297t) (H23:370t)	400t
検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底							
・適正栽培管理の指導 ・母樹園管理規定等の仕組みづくり					母樹を活用した苗木確保と計画的な改植・新植の推進		
将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり 新たな組織の検討(北川村、馬路村)					→	作業受託等の新たな組織作り	北川村1組織 馬路村1組織
農作業受託組織、作業班体制等による作業請負の仕組み作りに向けた検討(組織等の設立)							
ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓					→	加工仕向量 (H22:4,250t)	4,670t (10%アップ)
・(JA土佐あき)栽培基本技術向上による加工用A品果皮の出荷拡大 ・大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化 ・加工ニーズに対応した果汁殺菌施設の導入と施設を活かした販路開拓 ・高知県食品衛生管理認証制度への取組 ・果汁一元化販売に向けた体制整備 ・ユズ協業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出販売の拡大。(シンガポール、北米、EU等)							
(JA馬路村) 各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組					JA馬路村 加工品販売額 ユズ茶 (H21:0.8億円) 化粧品 (H21:1,700万円) ポン酢他ユズ加工品 (H21:20億円)		1.6億円 5,200万円 20.7億円



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
新植、改植の推進 青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化					→	青果出荷受入量 (H22:297t) (H23:370t)	400t
検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底							
・適正栽培管理の指導 ・母樹園管理規定等の仕組みづくり					母樹を活用した苗木確保と計画的な改植・新植の推進		
将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり 新たな組織の検討(北川村、馬路村)					→	作業受託等の新たな組織作り	北川村1組織 馬路村1組織
農作業受託組織、作業班体制等による作業請負の仕組み作りに向けた検討(組織等の設立)							
ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓					→	加工仕向量 (H22:4,250t)	4,670t (10%アップ)
・(JA土佐あき)栽培基本技術向上による加工用果皮の出荷拡大 ・大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化 ・加工ニーズに対応した果汁殺菌施設の導入と施設を活かした販路開拓 ・高知県食品衛生管理認証制度への取組 ・果汁一元化販売に向けた体制整備 ・ユズ協業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出販売の拡大。(シンガポール、北米、EU等)							
(JA馬路村) 各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組					JA馬路村 加工品販売額 ユズ茶 (H21:0.8億円) 化粧品 (H21:1,700万円) ポン酢他ユズ加工品 (H21:20億円)		1.6億円 5,200万円 20.7億円

(案)

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
ガイド育成					→	ジオパークガイド登録者数 (H22:20人)	40人
ガイド研修(登録ガイド数の増加・外国語対応ガイドの育成・周遊ガイドの育成)							
深層水・佐喜浜・段の谷・加奈木のつえサイト等のガイド育成							
ジオツアーの開発					→	ジオパーク関係施設来訪者 (H22:53,473人) ※ドルフィンセンターを含む	70,000人
ジオパーク周遊バス 実証実験		【実証実験の結果により】周遊バスの運行					
既存体験プログラム(炭焼体験・農業体験等)のブラッシュアップ							
コーディネーター組織の検討					→		
情報発信・国際交流							
ジオパーク全国大会開催		世界ジオパーク再審査					
・全国大会・国際会議でのPR・壺戸版こどもサマースクール等イベントの開催					→		
商品開発							
ニーズ調査		商品開発 (アドバイザー活用)					
拠点施設整備					→		
基本構想・基本設計		実施設計					
拠点施設の整備							
サイト整備					→		
ビクターセンター・インフォメーションセンター機能強化							
深層水サイトアクアファームの展示充実		登録サイト等の整備					
吉良川町並みサイト		嶋山サイト・西山サイト等の周遊コース整備					
羽根サイト歩道整備							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
ガイド育成					→	ジオパークガイド登録者数 (H22:20人)	40人
ガイド研修(登録ガイド数の増加・外国語対応ガイドの育成・周遊ガイドの育成)							
深層水・佐喜浜・段の谷・加奈木のつえサイト等のガイド育成							
ジオツアーの開発					→	ジオパーク関係施設来訪者 (H22:53,473人) ※ドルフィンセンターを含む	70,000人
ジオパーク周遊バス 実証実験		【実証実験の結果により】周遊バスの運行					
既存体験プログラム(炭焼体験・農業体験等)のブラッシュアップ							
コーディネーター組織の検討					→		
情報発信・国際交流							
ジオパーク全国大会開催		世界ジオパーク再審査					
・全国大会・国際会議でのPR・壺戸版こどもサマースクール等イベントの開催					→		
商品開発							
ニーズ調査		商品開発 (アドバイザー活用)					
拠点施設整備					→		
基本構想・基本設計		実施設計					
拠点施設の整備							
サイト整備					→		
ビクターセンター・インフォメーションセンター機能強化							
深層水サイトアクアファームの展示充実		段の谷・とらむらサイト等の整備					
吉良川町並みサイト		嶋山サイト・西山サイト等の周遊コース整備					
羽根サイト歩道整備							

物部川地域アクションプランの進捗状況等について

H25.9.13

物部川地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全 23 項目について、必要な情報共有や積極的な事業進捗に向けた協議など、支援チーム員と関係者が連携して取り組んでおり、全項目において概ね計画どおり進捗している。

農業分野では、天敵防除技術の導入やニラにおける栽培履歴の新記帳方法の開始、シシトウ、エメラルドメロンに関する炭酸ガス施用効果の検討など環境保全型農業の取組が順調に進捗している。また、青果出荷日本一のユズに関しては、高齢生産者の意向調査や若手生産者の意見交換会を行うなど、高齢化が進む産地を維持するための仕組みづくりを開始している。

林業分野では、素材の増産に向けて、森林経営計画策定のための地元説明会を開催しており、また、木質バイオマスボイラーの新規導入に向けた取組みを進めている。

水産業分野では、シイラの加工品について取引先と定期的に情報交換を行い、加工場の周年稼働に向けて加工量の確保と新規販路の開拓に努めている。

商工業分野では、伝統産業である土佐打刃物の魅力のPRや販路拡大、後継者育成に取り組んでいる。

観光分野では、恒例となった「岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリ」や「長宗我部フェス」等を開催したほか、土佐塩の道ウォークや御幣切り体験など物部川地域ならではの体験型観光を推進している。併せて、映画「県庁おもてなし課」のロケ地マップ（香南市夜須町手結エリア）を作成し、道の駅やす等で配布している。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
園芸主幹品目の再構築及び強化 ■No.1 南国市の園芸主幹品目シシトウの再構築（南国市） 《事業主体》 ・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市	[目標 (H27)] シシトウ販売額：10.8 億円 [H25 到達点] シシトウ販売額：10.4 億円 ※販売額はJAへの入金額 [取組状況] ・燃油価格高騰緊急対策事業説明会を開催し(5/23)、2戸の

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 エメラルドメロンの販売力向上対策 (香南市)</p> <p>《事業主体》 ・ J A 土佐香美</p>	<p>農家でヒートポンプを導入する予定となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 長岡シシトウ部会において炭酸ガス施用実証農家を決定した。 ・ 各 J A シシトウ部会の反省会において、省エネ対策、 I P M 技術、品種比較の実証結果を報告、併せて 26 園芸年度の取組について協議した。 ・ 新規栽培者に対する個別巡回及び情報収集を行い(5 回)、販売数量や決算書などの分析データを収集した。データを基に経営分析を行い、面談のうえ、26 園芸年度の目標を設定した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>省エネ技術導入に向けた取り組み ⇒実証試験等を行い実用性について検討していく。</p> <p>増収に向けた取り組み ⇒炭酸ガス施用について実証試験を行い、効果を検討する。</p> <p>土着天敵の導入 ⇒安定した防除効果を目指して実証ほを設置し、天敵防除技術の改善を図る。</p> <p>担い手育成 ⇒経営改善計画の目標達成に向け指導していく。</p> <p>[目標 (H27)] エメラルドメロン販売額：4.8 億円</p> <p>[H25 到達点] エメラルドメロン販売額：4.8 億円 ※販売額は J A への入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関東、徳島、大阪、名古屋で試食宣伝を行った。 ・ 炭酸ガス発生装置導入農家から炭酸ガス施用実態の聞き取りを行った。 ・ 高温期に適した温度・灌水管理について現地検討会を開催した(6/4, 7/25)。 ・ 黄化えそ病防除対策勉強会を開催した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>収量品質の向上 ⇒引き続き、炭酸ガス施用実態について聞き取りを行い、改善策の提示と施用効果等の調査を行う。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 3 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」(香南市・香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・ J A土佐香美</p>	<p>難病害虫防除対策</p> <p>⇒天敵勉強会の開催と天敵の導入の検討を行う。</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>ニラ販売額 : 30.0 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ニラ販売額 : 29.0 億円</p> <p>※販売額は J A への入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌消毒剤によるネダニ防除対策の現地検討会を行うとともに露地品種比較実証ほ及び展示ほを設置し(3ヵ所)、収量・品質、鮮度保持調査を行っている。 ・露地で軟腐病対策実証ほを設置し(5/27)、定期的に薬剤散布を行い、防除効果を調査している。 ・異物混入対策の目慣らし会を実施するとともに、栽培講習会を開催し(3回)、栽培履歴の記帳及び提出、安全・安心シートによる点検を指導した。 ・新規就農者も参加して、ニラ生産研究会の現地検討会を開催した。 ・生産者や J A から提供を受けた経営状況や販売に関するデータの分析を行った。 ・役員会で雇用アンケート調査の分析結果を検討した。機械化について導入産地の視察調査を実施予定。 ・食博に点天と共同出展し(4/26~5/6)、ニラ等 J A 土佐香美園芸品の試食宣伝及び販売を行った。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>出荷量の増加及び周年安定生産</p> <p>⇒引き続き、病害虫対策及び有望品種の実証等を行うとともに調整作業労働力の確保対策を検討していく。</p> <p>新規就農者等の育成・確保</p> <p>⇒部会でのバックアップ体制の検討を行い、必要な対策を講じていく。</p> <p>部会員の経営改善の仕組み作り</p> <p>⇒規模別の課題を抽出し、経営改善の指導に取り組む。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>ユズの総合的な産地強化</p> <p>■No. 11 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・JA土佐香美 	<p>[目標(H27)]</p> <p>ユズ販売額:5億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ユズ販売額:4.5億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ産地協議会や座談会、若手生産者との意見交換会を開催し、出荷量維持のための後継者の規模拡大及び基盤整備の導入、経営モデルの作成を決定した。 ・ユズ産地構造改革計画の素案を作成した。 ・こうち農業確立総合支援事業を活用して、小袋包装機とカラーリング施設を整備することとなった。 ・後継者不在で規模を縮小したいと考えている生産者に聞き取り調査を行い、意向を把握することができた。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>後継者の規模拡大</p> <p>⇒園地の状況や後継者がいない高齢の生産者の意向等をユズ産地構造改革計画に反映するとともに、各種支援制度の活用も検討していく。</p>
<p>地産地消・食育の推進</p> <p>■No. 4 地産地消・食育の推進(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA南国市出資農業生産法人 ・JA南国市、JA長岡、JA十市 ・南国市地産地消推進協議会 ・農家レストランまほろば畑 ・南国市 	<p>[目標(H27)]</p> <p>学校給食における地元野菜の供給割合金額ベース:15%</p> <p>業務筋への供給:15事業体</p> <p>[H25到達点]</p> <p>学校給食における地元野菜の供給割合金額ベース:13%</p> <p>業務筋への供給:18事業体</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への配送業務について、南国スタイル・市・市教委が現在の発注や配送ルートについて協議を行うとともに、地域食材の使用を増やすため使用推移の分析を行っている。 ・南国市内の3JAシトウ部会役員会で農家レストランまほろば畑との連携について協力を依頼した(8/20)。 ・農家レストランまほろば畑が来店者2万人を達成した(6/11)。(4/2~8/27の来店者数 平均181人/日)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 5 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大（南国市）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・ J A長岡</p>	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>配送ルートの見直し ⇒配送ルートの可視化や受注方法の検討等を行い、配送効率の向上に努める。</p> <p>J Aとの連携強化 ⇒ J Aと情報共有を行い、農家レストランまほろば畑への食材供給の方法等について検討を行う。</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>直販所等の売上額：100,000 千円 直販所等の雇用者数：8 人 ながおか温泉入場者数：19 万人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>直販所等の売上額：33,000 千円 直販所等の雇用者数：3 人 ながおか温泉入場者数：16 万人</p> <p>[取組状況]</p> <p>・ 4月16日付けで産振補助金の交付決定を受け、飲食店工事に着手するとともに、直販所建築に係る開発許可申請書を提出した。</p> <p>・ 運営会議を開催し、生産体制や商品開発、組織体制等について検討を行っている。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>事業の年度内完了 ⇒進捗管理を行うとともに、必要な支援を行っていく。</p>
<p>■No. 6 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充（南国市）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・ J A十市</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>直販所の営業日数：週6日 直販所への出店者数：100人 直販所売上額：50,000千円 直販所スタッフ雇用（新規）：3名</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>直販所の営業日数：週6日 直販所への出店者数：90人 直販所売上額：34,500千円 直販所スタッフ雇用（新規）：5名</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所会員との意見交換会を開催した(5/20)。 ・営業時間を17:00までに延長した(6/13～)。 ・店頭で鮮魚や花苗の販売を開始した(6/15～、6/20～)。 ・運営会議を開催し、今後の改善策の検討を行った(8/7)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品の充実</p> <p>⇒出荷会員の増による直販部門の強化を図るとともに、米粉パンの製造技術の向上及び商品の磨き上げを行う。</p>
<p>豊富な地域資源を活用した1.5次産業化の推進</p> <p>■No.7 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業、組織、グループ ・新しい組織、グループ ・JA南国市出資農業生産法人 ・南国市商工会 ・南国市観光協会 <p>■No.8 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんシャモ研究会 ・南国市商工会 ・南国市 	<p>[目標(H27)]</p> <p>地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規): 10組織・団体</p> <p>開発商品売上額: 1,000万円(40品目)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規): 8組織・団体</p> <p>開発商品売上額: 1,900万円(24品目)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産品等研究開発事業(南国市)を活用して、4団体4品の商品開発が開始した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>特産品づくりのプレーヤーの発掘・育成</p> <p>⇒地域特産品等研究開発事業及び実践型地域雇用創造推進事業(厚生労働省)等を活用して発掘・育成に取り組む。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>ごめんケンカシャモ提供店舗数: 18店舗</p> <p>シャモ目標飼育羽数: 3,000羽</p> <p>ごめんケンカシャモを使った加工品数: 3品</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ごめんケンカシャモ提供店舗数: 18店舗</p> <p>シャモ目標飼育羽数: 1,500羽</p> <p>ごめんケンカシャモを使った加工品数: 1品</p>

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む) ・ 課題と今後の対応
<p>■No. 12 香美市ブランドの確立・特産品づくり (香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 香美市観光協会 ・ 食品加工グループ 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐の食1グランプリで優勝したシャモスキやきを社中12店舗で提供しており、シャモスキやきセットを商品化し、販売を行っている。 ・ 新商品の試作を行った。 ・ 直営鶏舎整備計画の検討を行っている。 ・ 商談会等に参加するとともに、契約飼育についての協議を行っている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>在庫品の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒フェアやイベント、商談会等の機会を活用して販売拡大・販路開拓に取り組んでいく。 <p>シャモの安定的な生育体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒関係機関と連携を図り、生産体制の整備を行なっていく。 <p>[目標 (H27)]</p> <p>開発商品売上額：6,300千円 (20品目)</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>開発商品売上額：5,700千円 (16品目)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人香美市観光協会が中心となり、香美市内外で開催されるイベントに参加し、シカ商品やユズ加工品を販売し、特産品のPRを行っている。 ・ 食品加工グループが農業創造セミナーに参加し、新たな取り組みについて検討を始めた。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品の販売促進及び販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒イベント等に参加し、特産品の販売及びPRを行っていく。
<p>■No. 15 シイラ等の加工商材活用 (香南市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県漁協手結支所 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>シイラ加工事業の販売金額：700万円</p> <p>衛生管理の認証：県版HACCPの取得</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>シイラ加工事業の販売金額：700万円</p> <p>衛生管理の認証：-</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存取引先と定期的に情報交換を行い(2回/週)、販売先を確保している。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工場の周年稼働に向けた加工量の確保 ⇒既存取引先との連携を強化するとともに、新規販売先を開拓していく。</p> <p>衛生管理の維持 ⇒自主マニュアルを徹底していく。</p>
<p>地域に育つ県産材の有効活用</p> <p>■No. 13 民有林における素材の増産(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各森林組合 ・林業事業体等 <p>■No. 14 木質バイオマスの活用に向けての取組(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市 ・香南市 ・香美市 	<p>[目標(H27)]</p> <p>「森の工場」整備済面積：15,459ha 素材生産量(民有林のみ)：47,500 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>「森の工場」整備済面積：18,127ha 素材生産量(民有林のみ)：30,600 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度の素材増産のための森林整備事業について森林組合及び林業事業体への説明会を行った(3回)。 ・香美地方部会を開催し、森林整備や素材増産に向けた協議を行った(5/9)。 ・香美市物部町庄谷相地区で森林経営計画が認定された(6/7)。 ・森林経営計画策定に向け、南国市及び香南市の2地区において、地元説明会を行った。(7/6、8/6) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>森林経営計画の策定 ⇒労働力の確保や機械装備などの課題に留意して、森林経営計画を策定していく。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>ペレット利用量：1,230 t 排出量取引：1,500 t-co2</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ペレット利用量：517 t 排出量取引：-</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ J A 南国市 ・ J A 長岡 ・ J A 十市 ・ J A 土佐香美 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市と南国市内3JAとペレットボイラー導入に向けた打ち合わせを行った(5/9、5/30)。 ・現地見積会を7カ所合同で実施した(5/15)。 ・南国市における木質バイオマスボイラー導入に係る地域事業評価委員会を設置した(6/27)。 ・同委員会を開催し、導入箇所(3箇所)を選定した。(7/10) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>補助事業等の活用 ⇒早期のペレットボイラー導入に向け、事業計画作成の支援を行う。</p>
<p>歴史と伝統ある地場産業の振興</p> <p>■No. 19 地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興(香美市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県土佐刃物連合協同組合 ・香美市商工会 ・フラフ製造業者 ・香美市観光協会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>刃物製造業者数：現状維持</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>刃物製造業者数：現状維持(後継者育成モデルプランの活用)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかめナイフの販売を開始した(5/23)。 ・積丹ソーラン味覚まつりで土佐打刃物の展示販売を行った(6/30)。 ・あびす昭和横丁のイベントで土佐打刃物及びフラフのPRを行う予定(9/21、9/22)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>土佐打刃物後継者育成 ⇒「土佐打刃物製造業の後継者育成に向けたモデルプラン」について関係機関で引き続き協議を行っていく。</p>
<p>体験型観光商品の充実及び広域観光の取組の推進</p> <p>■No. 20 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～(南国市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会 ・市内各観光に関わる企業・団体・グループ 	<p>[目標(H27)]</p> <p>観光協会の会員数：150 一般社団法人数(観光協会の法人化)：1組織 主要4観光施設※の入り込み数：500,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>観光協会の会員数：85 一般社団法人数(観光協会の法人化)：1組織 主要4観光施設※の入り込み数：517,000人</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信(香南市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光協会 ・地域の体験メニュー等提供団体 	<p>※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所のレジ通過人数)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会が一般社団法人化した(4/1)。 ・岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリを開催した(4/7)。 ・第1回ごめんな祭を開催した(5/12)。 ・長宗我部フェスを開催した(5/18)。 ・土佐のまほろば祭り(8/3)、岡豊山の夏祭り(8/18)を開催した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>体験型観光の推進</p> <p>⇒コンテンツの創出、磨き上げ、育成、ネットワーク化に取り組んでいく。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>年間プロモーション活動:年6回以上(年のべ50社以上) 主催旅行の開催:10コース・募集200人以上</p> <p>[H25到達点]</p> <p>年間プロモーション活動:年6回以上(年のべ50社以上) 主催旅行の開催:10コース・募集200人以上</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐史跡めぐり～戦国の香美・香南を訪ねる～ツアーを実施した(5/25・29名参加)。 ・映画「県庁おもてなし課」ロケ地案内マップを作成し、道の駅やす等で配布している。 ・第2回土佐塩の道トレイルランニングレース(12/8開催)の参加人数を拡大し、9月から募集を開始する予定。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>旅行企画の多様化</p> <p>⇒地域素材を活用し、多様化に取り組んでいく。</p>
<p>■No. 22 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進(香美市)</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>体験プログラム数:20プログラム 体験プログラム受け入れ人数:500人</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・香美市観光協会 ・地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体 <p>■No. 23 広域観光の取組の推進(物部川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会のうち、南国市、香南市、香美市、(一社)南国市観光協会、(一社)香南市観光協会、(一社)香美市観光協会 	<p>[H25 到達点]</p> <p>体験プログラム数：16 プログラム 体験プログラム受け入れ人数：400 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・べふ峡温泉でピザ焼き体験、御幣切り体験、いざなぎ流舞神楽の観賞・体験を行った。 ・香美市三大祭り(川上様夏祭り、土佐山田まつり、奥物部湖水祭)等会場で体験型観光のPRを行った。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>体験メニューの充実 ⇒地域と香美市観光協会が連携し、新たな体験プログラムの造成や参加者の受け入れ体制の整備を図る。</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>観光客入り込み数：80 万人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>観光客入り込み数：65 万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知中央広域観光協議会設立総会を開催し、同協議会が発足した。併せて平成 25 年度事業計画及び予算を決定した(5/16)。 ・とさ旅セミナーに参加した(6/13)。 ・実務担当者会を開催した(6/11、7/9、8/21)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>広域観光の戦略検討 ⇒定期的に実務担当者会等を開催し、4 市の方向性を調整していく。</p>

②上記以外で特記すべき取組

特になし

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費 (補助金額)
<p>■No. 5 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大 (南国市)</p>	<p>・国道 195 号通称「あけぼの街道」の全線開通を好機ととらえ、直販所・加工所を本線沿いに移転拡充して地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売を行い、地域農業者の所得向上を図るとともに、隣接する「ながおか温泉」への誘客を促進し、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>124,928 (50,000)</p>

3 地域アクションプランの追加、修正、削除 (予定) 項目

[追加]

■還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化 (南国市)

4 県民参画に向けた取組

- ・香南市西川地区集落活動センター推進協議会役員会 (5/2) 及び全体会 (5/8) で産業振興計画シンポジウムのPR
- ・香美・香南地区農業振興連絡協議会総会で第 2 期産業振興計画 ver2 及び産業振興計画シンポジウムについて説明及びPR (4/23)
- ・三水会※において、移住促進策について説明 (5/15)
- ・香美 (5/23)・香南 (5/27) の各市商工会総会で、第 2 期産業振興計画 ver2 及び土佐MBAについて説明及びPR

※香美市の官公署、公共的団体、会社等の代表者等で構成される、親睦及び産業文化の向上発展への寄与を目的とする団体

5 相談案件：2 件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	5/14	農業	南国市内の農業者の所得向上につなげるため、還元水を活用した野菜の実証栽培試験をしたい。
2	6/19	農業	トマトを生産している事業者が、南国市と香南市を中心に、トマトとワイン用のブドウを栽培してもらえる農業者を探している。

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	南国市	素材名	還元水、高知野菜
		関連素材	
現状・課題	<p><現状> (株)南国スタイルでは(株)日本トリムの開発した「還元野菜整水器」によって生成された水を農業生産に活用するために、平成23年6月より葉菜類中心に試験栽培を行ってきた。整水器を利用することで生育促進効果など生産面で違いが現れてきている。平成24年度には高知県農業技術センターでピーマンの育苗試験、高知大農学部ではホウレンソウ・カイワレダイコンの発芽試験等を行った結果、数値としても明らかに生育促進効果があることが判明した。</p>		
	<p><課題> ・還元水を活用した栽培技術の確立が必要。 ・品目毎の実証試験と分析、試験データの蓄積が必要。</p>		
今後の方向性	還元水を活用した栽培技術を確立し「還元野菜」としてのブランド化を図り、農業者の所得向上につなげる。		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

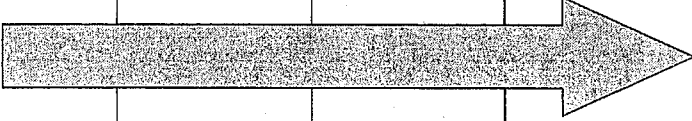
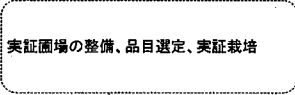


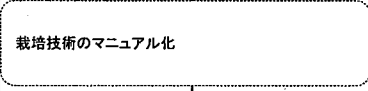

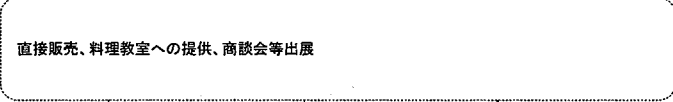

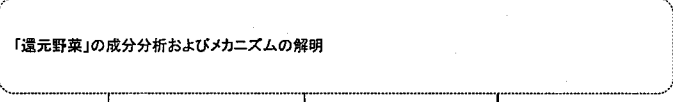

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化				
	関係市町村名	南国市				
事業の概要	還元水を活用した栽培技術を確立し「還元野菜」としてのブランド化を図る。 ・実証圃場の整備を行い、実証栽培及び栽培技術のマニュアル化を行う。 ・「還元野菜」の試験販売、販路開拓を行う。 ・「還元野菜」の成分分析とメカニズムを解明し、機能性を検証する。					
事業主体等	【事業主体】農業生産法人株式会社南国スタイル、株式会社トリムエレクトリックマシナリー、高知大学 【関係機関】南国市農業協同組合、高知県中央東農業振興センター					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28】	4年後【H29以降】
	「還元野菜」の生産・栽培技術の確立	・実証圃場の整備（ハウス建設等） ・品目選定 ・実証栽培 ・栽培技術の蓄積、確立	・還元野菜の生産 ・実証圃場の整備（ハウス建設等） ・品目選定 ・実証栽培 ・栽培技術の蓄積、確立	・還元野菜の生産 ・栽培技術の蓄積、確立 ・栽培技術のマニュアル化	・還元野菜の生産 ・栽培技術の蓄積、確立 ・栽培技術のマニュアル化	・還元野菜の生産 ・栽培技術の蓄積、確立 ・栽培技術のマニュアル化
	「還元野菜」の販路開拓	・直接販売、料理教室への提供、商談会等出展	・直接販売、料理教室への提供、商談会等出展	・直接販売、料理教室への提供、商談会等出展	・直接販売、料理教室への提供、商談会等出展	・直接販売、料理教室への提供、商談会等出展
	「還元野菜」の機能性の検証	・試験品目の成分分析 ・メカニズムの解明	・試験品目の成分分析 ・メカニズムの解明	・試験品目の成分分析 ・メカニズムの解明 ・機能性の検証	・試験品目の成分分析 ・メカニズムの解明 ・機能性の検証	・試験品目の成分分析 ・メカニズムの解明 ・機能性の検証
指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28】	4年後【H29以降】
	栽培技術のマニュアル化できた品目数	0品目	7品目	10品目	11品目	12品目
	「還元野菜」の販売先数	1箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所
	機能性に基づく差別化できた品目数	0	2	3	3	3
	【設定根拠】	【推計の考え方】 平成25年度は実証栽培・栽培技術の蓄積を行うとともに試験販売にて販路開拓を図る。翌年度以降は、栽培方法の確立、マニュアル化できたものから順次販路拡大を図っていく。また、並行して機能性の検証も行っていく。				
		【考え方】				
総事業費等	総事業費	20,000千円（うち25年度 20,000千円）				
	（内訳 国： 県： 市町村： その他：）	国： 県： 高知県新規就業受入体制整備事業費補助金 人的支援： その他：				
備考						

追加項目(案)

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
<p>還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化</p> <p>《南国市》</p>	<p>還元水を活用した栽培技術を確立し、「還元野菜」としてのブランド化を図るとともに成分分析をし、機能性の検証を行う。</p>	<p>農業生産法人(株)南国スタイル</p> <p>(株)トリムエレクトリックマシナリー</p> <p>高知大学</p>			<p>◆「還元野菜」の生産・栽培技術の確立</p> <p>◆「還元野菜」の販路開拓</p> <p>◆「還元野菜」の機能性の検証</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					栽培技術のマニュアル化ができた品目数	10品目
	「還元野菜」の生産・栽培技術の確立    				(H25 0品目)	
					「還元野菜」の販売先数	
	「還元野菜」の販路開拓 				(H25 1箇所)	
					機能性に基づく差別化ができた品目数	3
	「還元野菜」の機能性の検証  				(H25 0)	

高知市地域アクションプランの進捗状況等について

H 2 5 . 9 . 13

高知市地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全 32 項目の地域アクションプランについて、実行支援チームをつくり、事業推進に向けた支援と進捗管理を実施することにより目標の達成を目指している。

農業分野では、県下随一のキュウリの産地である J A 高知春野が、キュウリの代表的な病気である黄化エソ病対策として、天敵利用技術の普及を図るとともに、増収のため、炭酸ガスを施用する取り組みや新品種の生育調査を行っている。また、地域農産物の消費拡大を図るため、J A 高知市の農産品加工施設の機能強化を高知県産業振興推進総合支援事業費補助金の活用によって支援し、併せて食品加工や販売の人材育成にも積極的に取り組んでいる。

商工業分野では、新たにアクションプランに加わった高知県産の竹を使った自動車用ハンドル素材や竹シートの製造において、取引先との協議が進み、主要工程での製造設備の新規導入が始まるとともに、竹材の安定供給の目途が立つなど順調に推移している。また、地域の農産物を使った菓子類を首都圏で販売する取組では、この春、東京に2つの支店がオープンした。

また、観光分野では、よさこい祭り 60 周年にあわせて4月27日にオープンした高知よさこい情報交流館が、8月18日現在で37,866人の入館者を迎えるなど、予想を超えるにぎわいを見せている。この施設は、はりまや橋商店街の東詰めにあり、はりまや橋商店街と連携したイベントを開催するなどして、大橋通りやひろめ市場周辺を中心市街地西地区とともに東西軸エリア全体の発展が図られるよう取り組むこととしている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
地域の特色を活かした多様な農業の展開 ■No.1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興 《事業主体》 ・ J A 高知春野 ・ J A 高知春野キュウリ部会	[目標 (H27)] 出荷量：H27 園芸年度 11,000 t [H25 到達点] 出荷量：H25 園芸年度 11,000 t [取組状況] ・ 担い手対策(先進地調査2回、遊休ハウス情報収集の取組検討5回、受入農家との意見交換会1回)の実施 ・ 黄化エソ病対策として天敵利用の検討(協議会の開催2回、実証試験6ほ場、勉強会2回、現地検討会2回、環境保全

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ J A高知市三里園芸部花卉部会 	<p>型農業推進事業活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 量販店等での販売促進PRの実施、販促用レシピ作成 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産地維持拡大体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ⇒担い手が利用できる農地情報の収集及び共有、就農受入体制の検討 ・ 品質向上及び増収のための技術改良 <ul style="list-style-type: none"> ⇒天敵利用の普及に向けた実証圃の設置及び検討会の実施、炭酸ガス施用及び新品種の普及推進 <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：H27 園芸年度 80,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：H25 園芸年度 76,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な栽培管理技術の再確認（球根管理、病害虫管理等勉強会の開催） ・ オレンジハート栽培管理の聞き取り調査の実施 ・ 試験場や農家代表も参加する球根肥大不良解消プロジェクトチーム会において実証試験を行い、解決のためのデータ収集や情報交換を実施 ・ イベント（高知1回・東京1回）での試飾による宣伝活動を実施するとともに、花保ちを確認するための輸送中の品質保持対策の検証 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>球根肥大不良の原因解明</p> <p>⇒農業技術センターとの連携による球根肥大試験の検証</p>
<p>■No. 3 生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ J A高知市長浜支所園芸部花卉部会 ・ J A高知春野 ・ J A高知春野花卉部会球根部会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：H27 園芸年度 46,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：H25 園芸年度 45,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質向上（目慣らし会5回・ポリウムアップ処理実施[5～6花に摘蕾]）、コスト低減対策（寒冷地型ヒートポンプ加温機の導入の検討5戸、36台、102a）の実施 ・ ユリのブランド化のための市場調査の実施、及びホームページによる情報発信 ・ 安定出荷を見据えた植え付け計画の検討 <p>[課題と今後の対応]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 5 ナシ産地の振興とブランド強化</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 高知市 ・ 針木梨組合 <p>■No. 7 新ショウガの生産振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 高知春野 ・ J A 高知春野ショウガ部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質の底上げと安定出荷 ⇒現地検討会等の実施 ・ ホームページの充実 ⇒ホームページ掲載内容検討 <p>[目標 (H27)]</p> <p>生産量：H27 年産 550 t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>生産量：H25 年産 330 t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高品質化に向けた栽培講習会（1 回 21 人参加）及び巡回指導 ・ 地域ぐるみの鳥獣害対策（協議会及び地域パトロール）の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産地ブランドの向上 ⇒高品質化への管理の徹底（目慣らし、土壌管理等） ・ 鳥獣害対策の継続 ⇒カラス対策に加え、イノシシ・ハクビシン対策の強化 <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：H27 園芸年度 120,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：H25 園芸年度 95,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質向上対策（目慣らし会 1 回・土壌病害対策実証試験現地検討会 2 回、発生状況聞き取り調査等）の実施 ・ 出荷場の機能強化（洗浄水確保のための再処理装置導入効果の検証、腐敗防止対策としてマイクロバブル発生装置の効果の実証試験 H25～） ・ 販売・消費拡大 P R（スーパー等での消費宣伝 [高知 1 回、大阪 2 回、東京 1 回、宮城 1 回]）の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>品質の向上 ⇒市場での腐敗事故軽減対策・土壌病害虫対策の実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>中山間地域の振興</p> <p>■No. 8 ユズを核とした中山間農業の活性化</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ J A高知市土佐山柚子生産組合 <p>■No. 9 四方竹のブランド化による中山間地域の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A高知市 ・ J A高知市特産部会（七ツ淵筍加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会） ・ (財) 夢産地とさやま開発公社 	<p>[目標 (H26)]</p> <p>販売額：19,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：18,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗木育成圃場の管理指導（チーム員全員で4回） ・ 黒点病の省防除及び天敵活用実証圃の設置（天敵発生調査7回） ・ 有利販売に向けた生産予測調査（4回） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工需要に応える産地の形成 ⇒生産者の高齢化等に伴うユズ園の現状把握、台帳作成整理等の実施、青果出荷への誘導、生産予測調査の継続</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：4,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：4,000 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工場および機械格納用倉庫の整備に係る計画策定協議の実施 ・ 加工場整備に向け、土佐山地区、鏡地区生産者全戸から生産意向調査実施（39人） ・ 園地（耕作園、放棄園）マップ作成着手（協議・現地調査8回） ・ 腐敗防止対策（冷水機導入等）によるブランド力の強化 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>高知市四方竹振興計画の推進 ⇒地下茎等の生育調査、耕作放棄園マップ・各圃場状況個表等の作成、加工場及び運営体制等の整備</p>
<p>■No. 10 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (財) 夢産地とさやま開発公社等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：10,720 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：11,800 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柚子酢、ジンジャーエール等加工品の安定供給・販路拡大（首都圏でのイベント販売や、自社ECサイト立ち上げ） ・ 新たな食品加工施設の整備（地域経済循環創造事業交付金

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 直販店を核とした鏡地域の活性化</p> <p>《事業主体》</p> <p>・鏡村直販店組合</p>	<p>[総務省] H25. 3月採択</p> <p>・良質な堆肥の生産(とさやま土づくりセンター)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>公社及び農家の所得の向上</p> <p>⇒新たな加工品の開発と新加工施設の整備</p> <p>[目標(H26)]</p> <p>販売額: 17,000万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売額: 16,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>・需給改善品目(キュウリ等4品目)の動向調査と作付体系作成</p> <p>・夏季葉菜類の収穫に向けた作付誘導(実証圃場の設置2箇所: コマツナ7作、小ネギ5作栽培実証中)</p> <p>・普及員OGによる地元産物を使った料理講習会の開催(3回・延べ19人)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>需給改善対策の推進</p> <p>⇒乾燥野菜の商品化検討、料理講習会、栽培実証内容の情報提供と栽培への誘導等の実施</p>
<p>■No. 14 森の工場を核とする素材生産量の拡大</p> <p>《事業主体》</p> <p>・高知市森林組合</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>森の工場面積: 1,500ha</p> <p>素材生産量: 4,000 m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>森の工場面積: 1,174ha</p> <p>素材生産量: 3,270 m³</p> <p>[取組状況]</p> <p>・素材増産に係る関係機関への森林整備事業説明会の開催(3回)</p> <p>・市広報紙や県ホームページによる、間伐の啓発と補助制度紹介の実施(8月)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>素材の増産</p> <p>⇒森の工場の拡大、森林経営計画策定のために施業合意率の向上を図る</p> <p>⇒森林所有者への戸別訪問や地元説明会を行い、事業への理解を得る</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>一次産品(地域資源)を活用した6次産業化の推進</p> <p>■No. 16 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)スタジオ・オカムラ ・連携農家 	<p>[目標(H27)]</p> <p>販売額: 9,400万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額: 6,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百貨店でのお中元ギフトカタログ等による販売(9社) ・好調なジンジャーエール等炭酸飲料の増産体制整備(加圧タンク1台→2台へ) ・加工品販売額(4~7月): 16,560千円 ・高級量販店向けPB商品の開発 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>小口配送に伴う物流コスト ⇒首都圏のスーパーのPB商品生産など量のまとまりを目指した販路開拓</p>
<p>■No. 12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市女性部 	<p>[目標(H26)]</p> <p>販売額: 2,000万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額: 1,935万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産加工施設「婦人の家」の改修に対する支援(高知県産業振興推進総合支援事業費補助金H25.6月採択) ・夏秋野菜の新品種勉強会の開催 ・販売や加工の人材育成 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>「婦人の家」の機能強化 ⇒加工施設の機能強化支援、加工人材の確保・育成</p>
<p>■No. 13 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市酪農農業協同組合 	<p>[目標(H27)]</p> <p>店舗の販売額: 1,600万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>店舗の販売額: 1,400万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客ニーズに合った商品開発 ・店舗での販売額(4~7月): 4,476千円(対前年比101.1%) ・オープンファーム、酪農教育ファームの実施による店舗の認知度の向上

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20 「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株) 永邦水産 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>新規顧客の開拓とリピーターの確保 ⇒イベントの継続的な実施、店舗外（高知生協、県庁生協、ネット販売）での販促活動の充実</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>食品加工品の売上額：2.5億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>食品加工品の売上額：1.5億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新加工施設の整備完了（5月末） ・試作商品の製作（5種類） ・従業員の確保（新規雇用14名） ・食品営業許可の取得（3業種） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品づくりと販路の確保 ⇒大手量販店との商談のための支援</p>
<p>■No. 21 地域の農産物を使った菓子類等の外商の推進</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有) マンジェ・ササ 	<p>[目標(H27)]</p> <p>首都圏での売上額：1.7億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>首都圏での売上額：7,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に東京駅の丸の内側地下街に直販店舗を出店、5月には自由が丘に首都圏での2号店を出店 ・四万十米粉と柚子を使ったカステラや、「茗荷とグレープフルーツのタルト」など県産野菜を前面に出した菓子類等を首都圏で直販 ・季節に応じた商品展開 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>高知県産の野菜とスイーツの組み合わせなど意外性のある商品の消費者へのアピール ⇒テレビや雑誌などを媒体とするグルメレポートや、自社ホームページによる商品の情報発信</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>新分野への挑戦</p> <p>■No. 18 県産竹材を用いた新規分野への製品展開</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)コスモ工房</p> <p>■No. 19 防災食の開発・製造・販売</p> <p>《事業主体》</p> <p>・高知県食品工業団地事業協同組合の企業など</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>売上額：1.2億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>売上額：9,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹製ハンドルの増産に伴うラミナの増産対応 ・新製品開発(竹シート)および事業化に向けた検討 ・ものづくり補助金(中小企業団体中央会)を活用(6月採択済)して竹シート製造用ロールプレスの設備導入を決定 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>竹材の確保と新工場の整備に対する支援 ⇒他の地域本部等と連携した竹林の確保</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>アイテム数：50アイテム</p> <p>[H25到達点]</p> <p>アイテム数：6アイテム</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産品を原材料とする防災食の開発 ・防災展(5/24・25 中部ライフガードTEC)への出展 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新商品の開発、販路の確保、商品の改良 ⇒高知県防災関連製品認定制度の活用</p>
<p>中心市街地の活性化</p> <p>■No. 23 中心商店街でのアンテナショップの運営</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)まこと</p>	<p>[目標(H27)]</p> <p>販売額：184,300千円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>販売額：153,600千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある県産品の掘り起こし →登録アイテム累計4,300、約1,600点を陳列、販売 ・4年目の販売実績は、前年実績に対し112%で推移(8/13現在414千円/日) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>「てんこす」の販売額アップ ⇒商店街関係者・NPO・学生等との連携による地域産品のPR</p>

重点的な取組	取組状況 (結果、成果を含む) ・課題と今後の対応
<p>■No. 24 多彩なイベントや演出等によるおま ちのにぎわいづくり</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街振興組合など 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>—</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>—</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100円商店街等のイベントの実施 ・季節に応じたフラフを飾り、商店街のにぎわいを演出 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>集客力の向上、リピーターの創出 ⇒商店街での集客イベントの実施</p>
<p>魅力ある観光戦略の展開</p> <p>■No. 27 近隣地域等との連携による滞在型・体 験型観光の推進</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館等 ・高知市 <p>■No. 28 本家よさこいのブランド力確立とよ さこい文化の継承・発展</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(社)高知市観光協会ほか関係団体等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数：112万人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数：114万人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城西館による四万十町方面での着地型観光ツアーの展開 ・高知中央広域観光協議会の設立による観光資源の広域ネットワーク化 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな着地型旅行商品と既存の商品を併せた宿泊客へのPR ・近隣地域との連携の強化 ⇒高知中央広域観光協議会、仁淀川地域観光協議会等との連携 <p>[目標 (H27)]</p> <p>よさこい祭り来場者数：近年の最高来場者数 (1,200千人) の維持</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>よさこい祭り来場者数：1,200千人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知よさこい情報交流館事業の実施 (4/27オープン、入館者8/18現在37,866人) ・はりまや橋商店街と連携したイベント (よさこい鳴子踊り等) の実施 ・よさこい発祥の地PR事業 (全国よさこいサミット等) の実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 31 土佐の偉人を活かした観光の振興</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(社)高知市観光協会 ・特定非営利活動法人土佐観光ガイドボランティア協会 ・長宗我部連絡協議会等関係団体 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>年間を通して「よさこい」で集客できる事業計画の策定 ⇒よさこい祭り 60周年を活かしたPR活動、まちなかよさこいの実施</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>「龍馬の生まれた町歩き～土佐っ歩～」等への参加人数： 3,800人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>「龍馬の生まれた町歩き～土佐っ歩～」等への参加人数： 3,250人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「龍馬に大接近」の実施(4/20～5/12)約27,000人集客 ・土佐っ歩の実績4～7月：549人、(対前年比146%) ・第2回長宗我部まつり開催(5/19)：約1,500人集客 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>更なる集客力の向上 ⇒偉人関連施設及びイベントの充実強化、団体客の確保</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
該当なし	

2 平成25年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市女性部 	<p>JA高知市女性部直販部会の農産加工施設(婦人の家)の拡充整備により、地元農産物や県産物を活用した加工品の製造量を増やし、直販所での販売を拡大する。</p>	<p>12,134(5,303)</p>

3 地域アクションプランの追加、修正、削除(予定)項目

該当なし

4 県民参画に向けた取組

- ・ 企業訪問時に土佐の産業おこし参加プラン、産業振興計画シンポジウムのPR
- ・ 地域団体（春野地域ほか）の行事の際に産業振興計画のPR
- ・ 工業会、発明協会に対して産業振興計画シンポジウム、土佐MBAのPR
- ・ 高知市主催のイベントで、産業振興計画シンポジウム、土佐MBAのチラシの配布

5 相談案件：5件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/16	農業	ニラ収穫の機械化について
2	4/16	工業	発電装置の製造に係る支援について
3	5/9	商業	廃校になった小学校の民間活用について
4	7/12	商業	スポーツ事業に対する支援について
5	8/22	商業	新分野に進出しようとする企業に対する助成制度について

嶺北地域アクションプランの進捗状況等について

H 2 5 . 9 . 1 3

嶺北地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

嶺北地域では、核となるプレイヤーが複数の取組を行っている現状であり、各分野で新しい担い手やリーダーの人材育成が急務となっている。

そのため、各分野ごとの担い手育成の取組に加えて、4町村が連携した観光・交流人口の拡大や移住促進の取組の中で、U・Iターンによる地域外からの担い手確保の取り組みにも力を入れている。一方で、地域内の人材育成として嶺北高校と連携して将来の担い手の育成にも取り組んでいる。

本年度の嶺北地域の28項目のアクションプランについては、概ね計画に沿って事業が進捗しつつある。なお、計画が遅れていた「土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興」の取り組みについては、造成工事が着手され、畜舎の建築準備が進められるようになった。

また、奈良県立大学及び京都光華女子大学短期大学部と嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力に関する包括協定を締結し、継続的な取り組みが仕組化された。

更に、大阪圏都市部（行政、民間団体）との連携方針がほぼまとまり、二地域居住を含む、人的・物的交流への取り組みが始まろうとしている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>“れいほく”ブランドの園芸産地の確立及びユズ加工品の販売促進</p> <p>■No.1れいほくブランドの園芸産地の維持 (嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐れいほく(園芸部会、花き部会) ・直販生産部会土佐町支部 	<p>[目標(H27)]</p> <p>れいほく八菜 販売額:1.6億円 れいほく八菜 生産者数:136人 研修による新規就農者数:8人(累計)</p> <p>れいほく八花 販売額:1.1億円 直販売上額:9.5千万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>れいほく八菜 販売額:1.6億円 れいほく八菜 生産者数:170人 研修による新規就農者数:8人(累計)</p> <p>れいほく八花 販売額:1.2億円 直販売上額:8.5千万円</p> <p>[取組状況] (担い手育成)</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 ユズ産地の確立と加工・販売の促進 (本山町、大豊町、土佐町)</p> <p>《事業主体》</p>	<p>・経営実態調査(部会、モデル農家2戸)</p> <p>・啓発:現地検討会1回、個別巡回2回、個別面談1回 (れいほく八菜)</p> <p>・JA各生産部会の現地検討会(10回)</p> <p>・天敵の推進講習会(2回)、天敵リレー(2回)</p> <p>・栽培管理指導(土壌溶液分析)(4回)</p> <p>・販売促進企画会議(5回)</p> <p>・販売先の拡大:1店舗(県外)</p> <p>(れいほく八花)</p> <p>・栽培管理巡回指導(10回)</p> <p>・土壌分析による施肥指導(4回)</p> <p>・ノーブルを中心とした販売促進活動の検討(2回)</p> <p>(直販)</p> <p>・栽培講習会(8回)</p> <p>・現地巡回指導(2回)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>(担い手育成)</p> <p>・多様な担い手確保 ⇒関係機関、農業者が一体となった取組の推進</p> <p>(れいほく八菜)</p> <p>・基幹品目(米ナス、シトウ、ピーマン)の栽培確立 ⇒生産技術の向上、病害虫対策の向上</p> <p>・販売促進活動などによる販売拡充 ⇒販売拠点(コープかがわ)の充実と消費宣伝 県内市場及び大阪市場の販売強化</p> <p>(れいほく八花)</p> <p>・ノーブルの高品質・安定生産技術の確立 ⇒ノーブルの球根供給システムの確立と生産技術向上の体制づくり</p> <p>・市場への販売促進活動 ⇒県外(東京)商談会(H26・1月)への参加を計画中</p> <p>(直販)</p> <p>・直販生産者の生産量の増 ⇒栽培管理指導による出荷量の増及び品質向上</p> <p>[目標(H27)] 加工品販売額:6億円</p> <p>[H25到達点] 加工品販売額:4.5億円</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 嶺北地域果樹(ゆず)産地協議会 ・ J A土佐れいほく 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出候補園地決定(大豊町15a、土佐町50a) ・ 個別巡回指導(3回) ・ 生態(着花状況等)調査(7回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユズ加工品の販路拡大 ⇒ 国外への販促活動の強化
<p>J A 出資型法人を核とする地域活性化の取組</p> <p>■ No. 6 J A 出資型法人を核とする地域活性化の取組(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A土佐れいほく ・ (株)れいほく未来 ・ 米米ハート 	<p>[目標(H27)]</p> <p>農業経営事業(園芸)売上高: 3,000万円 研修による新規就農者数: 3人(累計) 事業主体への新規雇用数(累計): 2人 米粉等の販売額: 1.6億円</p> <p style="padding-left: 20px;">内訳 4,000万円(米粉等) 5,000万円(米粉パン等) 7,000万円(ブランド米等)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>農業経営事業(園芸)売上高: 1,207万円 研修による新規就農者数: 0人(累計) 事業主体への新規雇用数(累計): 1人 米粉等の販売額: 1.55億円</p> <p style="padding-left: 20px;">内訳 2,500万円(米粉等) 5,000万円(米粉パン等) 8,000万円(ブランド米等)</p> <p>[取組状況]</p> <p>(農業経営事業、米関連事業、農作業受託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作付実績: 園芸作物86a、新規需要米210a ・ 農作業受託: 水稻591a、ハウス30a ・ 育苗事業販売額38,672千円 (野菜5,924千円、花8千円、水稻32,741千円) <p>(米粉事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こうち農商工連携基金事業の採択(事業費: 4,254千円) れいほく未来、とさ千里、嶺北高校の連携による新商品、米粉加工品の販路拡大の取組 ・ 商談会への参加(1回) ・ 作付実績: 米粉用米16ha <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業体(J A出資型法人)の経営の安定化 ⇒ 中期経営事業計画(5ヶ年)の実践支援

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・米粉・米粉加工品の販売拡大 ⇒農商工連携基金事業の効果的な活用 (新商品を用いた販売促進活動等への実践支援)
<p>肉用牛産業の再興及び土佐はちきん地鶏の振興による畜産業の展開</p> <p>■No. 8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興(本山町、土佐町、大豊町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・飼養者 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 <p>■No. 9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化(大川村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)むらびと本舗 ・大川村 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐あかうしの販売額: 2.1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐あかうしの販売額: 2億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎建築予定地の造成準備 ・繁殖雌牛4頭導入(累計20頭) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎建築予定地の早期造成 ⇒関係者による事業内容の協議(計画的な施設整備) ・飼育担当者の飼養管理技術の向上 ⇒飼養管理技術の向上支援(現地指導等) <p>[目標(H27)]</p> <p>黒牛の販売額: 8.2千万円</p> <p>はちきん地鶏出荷羽数: 10万羽</p> <p>[H25到達点]</p> <p>黒牛の販売額: 7.0千万円</p> <p>はちきん地鶏出荷羽数: 7万羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎の改築(換気・結露・害獣対策) ・繁殖雌牛1頭導入 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の飼養管理技術の向上 ⇒職員の飼養管理技術の向上支援(現場指導等) ・繁殖雌牛の増頭及び高齢牛の更新 ⇒計画的な繁殖雌牛の保留
<p>嶺北材の増産及び販路拡大</p> <p>■No. 10 間伐の推進と素材生産の拡大(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者 	<p>[目標(H27)]</p> <p>素材生産量: 150,000 m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>素材生産量: 100,000 m³</p> <p>[取組状況]</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林組合 ・ 素材生産事業体 ・ 自伐林家 <p>■No. 11 れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (株) SUN SHOW ・ レイホク木材工業(協) ・ 吉野川リビング(協) ・ 土佐町 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 架線集材システム支援事業による支援(4事業体9箇所) ・ 森林組合連合会と連携し、増産に向けた経営指導の実施(1森林組合) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原木増産体制の整備 ⇒ 搬出間伐の補助を受けるための計画作成支援 皆伐、再造林への支援 <p>[目標(H27)]</p> <p>木材の出荷量: 900 m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>木材の出荷量: 540 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県外工務店社員研修受入(1回) ・ 納材実績: 16棟、266.19 m³ <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早期の「れいほくスケルトン」の基準作り ⇒ 関係者と次期展開に関する検討・協議の実施
<p>大型製材工場の設置</p> <p>■No. 15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高知おおとよ製材(株) ・ 大豊町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>製材品の生産量: 55,000 m³</p> <p>[H25到達点]</p> <p>製材品の生産量: - m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「高知おおとよ製材」採用者の就業(17名:累計24名) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原木供給体制の整備 ⇒ 関係機関と連携し、原木市場を中心とした供給体制の整備検討
<p>地産外商の促進</p> <p>■No. 18 土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (株)とさ千里 ・ JA土佐れいほく ・ 土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額: 1.2億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額: 0.85億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗、HPのリニューアル(4月) ・ 催事(5月・7月・8月催事の他、週末毎のカツオのタキ実演販売など) ・ 地域産品商談会参加(5月)等による新商品の導入

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・県大阪事務所での木曜日(23回) ・県大阪事務所からの依頼出店(8月、9月) ・「てんこす」「まるごと高知」からの情報提供(毎月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来店者増(売上増)に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ⇒地域住民をリピーターとして確保するための品揃え(生鮮野菜、日配品、パン) 催事開催による新規誘客 県による支援(木曜市の継続、てんこす等の情報提供、県人会等へのPR)
<p>嶺北地域の連携による交流人口の拡大</p> <p>■No.19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大(嶺北地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域観光・交流推進協議会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>公共関連宿泊施設での宿泊者数:12,000人</p> <p>新たな旅行商品となる体験メニュー数:5件(累計)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>新たな旅行商品となる体験メニュー数:3件(累計)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域の旅行商品化の動き <ul style="list-style-type: none"> 商品化:(1社協議中)(8月16日現在) 催行:2社・20本 778名(7月21日実施分まで) ・大学と連携した商品磨き上げの取組 <ul style="list-style-type: none"> 大学:3校(県外3校) ・エリアキャンペーン(4/1~9/30)実施 <ul style="list-style-type: none"> インターネットツール(ブログ、フェイスブック等)での情報提供 ・観光人材育成塾「とさ旅セミナー」への参加 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光のコーディネート組織(人)の機能強化 ・次年度以降の協議会の事務局体制の検討 <ul style="list-style-type: none"> ⇒嶺北地域観光・交流推進協議会で検討

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 米のブランド化による稲作農業の展開 (本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町ブランド化推進協議会 ・(財)本山町農業公社 ・本山町酒づくり協議会 ・ばうむ合同会社 ・本山町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ブランド米の販売額：1億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ブランド米の販売額：5,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(ブランド米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理指導(4回) ・田んぼアートの実施 ・栽培面積31ha、生産者39戸 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>(ブランド米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者価格の向上 <p>⇒直接販売増の取組の実施</p>
<p>■No. 5 (株)大豊ゆとりファームを核として 地域資源の活用により地域産業を持続化さ せる取組(大豊町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)大豊ゆとりファーム ・大豊町碁石茶協同組合 ・大豊町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>碁石茶関連商品の総販売額：0.5億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>碁石茶関連商品の総販売額：0.2億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碁石茶の販促活動 <p>新規取引先：4社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールベジタブルの販促活動 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碁石茶の茶葉、加工品の販路拡大 <p>⇒商談会への出展等による新たな取引先の開拓</p>
<p>■No. 7 直販所「本山さくら市」を核とした地 域活性化の取組(本山町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山さくら市運営委員会 ・(財)本山町農業公社 ・本山町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：1.8億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：1.42億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業適正使用講習会(1回) ・先進地視察研修(1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>商品、情報発信機能の充実</p> <p>⇒栽培講習会、PR活動等の継続実施</p>
<p>■No. 24 滞在型市民農園の推進による地域の 活性化(本山町)</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>町内移住者：30人</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本山町 	<p>[H25 到達点]</p> <p>町内移住者：15人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の利用開始（6月9日） ・ 施設利用者（4組9人） ・ 町内移住者（13組16人） ・ 県外相談会への参加（6回、相談者46名） ・ 施設利用者と地域住民との交流活動 2回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 滞在後の移住への移行 ⇒施設利用者と地域の交流機会の拡大
<p>■No. 25 嶺北地域の連携による移住促進の取組（嶺北地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ れいほく田舎暮らしネットワーク ・ 本山町 ・ 大豊町 ・ 土佐町 ・ 大川村 	<p>[目標（H27）]</p> <p>移住者数：100人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>移住者数：50人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移住促進連絡会の開催（5回） ・ 県外での移住相談会への参加（7回） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局体制の整備 ⇒町村、れいほく田舎暮らしネットワーク、県により協議
<p>■No. 27 地域内高校と連携した将来の担い手育成に関する取組（嶺北地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (株) れいほく未来 ・ 嶺北高校 ・ 本山町 ・ 大豊町 ・ 土佐町 ・ 大川村 	<p>[目標（H27）]</p> <p>商品提案数：5件（累計）</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>商品提案数：3件（累計）</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米粉等を利用した新商品の開発及び販路開拓 こうち農商工連携基金事業を活用し、(株)れいほく未来・(株)とさ千里・嶺北高校による6次産業化の取組を展開中 ・ 連携事業者の開拓 ・ 連携事業者向けの試食会 1回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生が主体的に動き出すキッカケづくり ⇒高校生を主体とした模擬会社化の体制づくり

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
該当なし		

3 地域アクションプランの追加、修正、削除（予定）項目

[追加] 該当なし

[修正] ■No.4 米のブランド化による稲作農業の展開
 （理由）米焼酎の製造所の完成に伴い目標値を設定

[削除] 該当なし

4 県民参画に向けた取組

(1) 各種会議での説明・P R

実施日	会議等の名称	説明・P R等の内容
4月19日	土佐町部落長会	第2期計画
4月24日	大豊町商工会理事会	〃
4月30日	大豊町区長会	〃
5月23日	大豊町森林組合理事会	第2期計画（資料配布のみ）
5月23日	本山町商工会総会	第2期計画
5月27日	土佐地区商工会総会	〃

(2) その他

文書でのP R

・産業振興計画シンポジウムの案内・・・3 地区商工会、4 町村森林組合、4 町村、
 フォローアップ会議委員、J A、嶺北高校 ほか

5 相談案件 1 件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	H25. 4. 1 H25. 6. 10	飲食店	町内に安定して土佐あかうしを提供できる飲食施設を整備したい。

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
4 米のブランド化による稲作農業の展開 (本山町)	消費者が求めるブランド力のある米の生産により、価格のアップを図り、後継者が将来に展望を持つことができる稲作農業を確立するため、良好な水田環境など地域の特性を付加価値とすることや、室戸海洋深層水を栽培過程で使用することによる新ブランド米「天空の郷」の定着と加工品の開発による発展を図る。	・本山町ブランド化推進協議会 ・(財)本山町農業公社 ・本山町酒づくり協議会 ・ばうむ合同会社 ・本山町	<p>・本山町特産品ブランド化協議会によるブランド化の取組(販売促進への支援と栽培技術の徹底指導等)(H21~23)</p> <p>◆平成20年度に設立した本山町ブランド化協議会では、米・食味鑑定士協会長や有名な米販売店の講演会が開催され、ブランド米生産への活動の方向性が定まった。</p> <p>◆ブランド米の名称を、公募により「土佐天空の郷」に決定した。</p> <p>◆美味しい米作りのための栽培基準を作成し、基準に基づいた栽培技術指導の徹底により、本格的な生産が始まった。</p> <p>◆米の販売促進活動を全国展開し、100店舗以上で米の販売が行われた。</p> <p>・産振総合補助金の導入(H21~23)</p> <p>◆色彩選別機や米選機等の導入により、高品質な商品として出荷できる体制が整った。</p> <p>・コンクールへの出品(H21~23)</p> <p>◆お米のコンクール(お米日本一コンテストinしずおか)で優勝し、ブランド米としての知名度があった。</p>	<p>・生産者と生産量の増</p> <p>・直接販売の増等による生産者価格の向上</p>	<p>◆ブランド米の生産増、販路拡大</p> <p>◆ブランド米を活用した加工品開発</p>

修正前



項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
4 米のブランド化による稲作農業の展開 (本山町)	消費者が求めるブランド力のある米の生産により、価格のアップを図り、後継者が将来に展望を持つことができる稲作農業を確立するため、良好な水田環境など地域の特性を付加価値とすることや、室戸海洋深層水を栽培過程で使用することによる新ブランド米「天空の郷」の定着と加工品の開発による発展を図る。	・本山町ブランド化推進協議会 ・(財)本山町農業公社 ・本山町酒づくり協議会 ・ばうむ合同会社 ・本山町	<p>・本山町特産品ブランド化協議会によるブランド化の取組(販売促進への支援と栽培技術の徹底指導等)(H21~23)</p> <p>◆平成20年度に設立した本山町ブランド化協議会では、米・食味鑑定士協会長や有名な米販売店の講演会が開催され、ブランド米生産への活動の方向性が定まった。</p> <p>◆ブランド米の名称を、公募により「土佐天空の郷」に決定した。</p> <p>◆美味しい米作りのための栽培基準を作成し、基準に基づいた栽培技術指導の徹底により、本格的な生産が始まった。</p> <p>◆米の販売促進活動を全国展開し、100店舗以上で米の販売が行われた。</p> <p>・産振総合補助金の導入(H21~23)</p> <p>◆色彩選別機や米選機等の導入により、高品質な商品として出荷できる体制が整った。</p> <p>・コンクールへの出品(H21~23)</p> <p>◆お米のコンクール(お米日本一コンテストinしずおか)で優勝し、ブランド米としての知名度があった。</p>	<p>・生産者と生産量の増</p> <p>・直接販売の増等による生産者価格の向上</p>	<p>◆ブランド米の生産増、販路拡大</p> <p>◆ブランド米を活用した加工品開発</p>

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
▶					ブランド米の販売額 (H20:417万円) (H22:3,120万円)	1億円
ブランド米の生産増、販路拡大						
ブランド米の生産増、販売拡大						
美味しい米づくりの栽培法の検証						
消費者との交流等による産地のファン作り						
▶					ブランド米を活用した加工品開発	
新たな商品開発(ブランド米中米を活用した焼酎生産と施設整備)						
ブランド米中米を活用した焼酎の販売促進活動						
ブランド米中米を活用したその他の加工品の開発と販売促進活動						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
▶					ブランド米の販売額 (H20:417万円) (H22:3,120万円)	1億円
ブランド米の生産増、販路拡大						
ブランド米の生産増、販売拡大						
美味しい米づくりの栽培法の検証						
消費者との交流等による産地のファン作り						
▶					焼酎の販売本数	17,800本
ブランド米を活用した加工品開発						
新たな商品開発(ブランド米中米を活用した焼酎生産と施設整備)						
ブランド米中米を活用した焼酎の販売促進活動						
ブランド米中米を活用したその他の加工品の開発と販売促進活動						

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

H25. 9. 13

仁淀川地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全38プランについて、実行支援チームを編成、事業推進に向けた支援と進捗管理を実施し、地域アクションプランに掲げた目標の達成に向けて取り組んでいる。

全体としては、計画どおりの進捗を見ており、場面場面に応じて、順次、支援事業を導入するなど、具体の事業支援に取り組んでいる。

主な動きとしては、産振補助金を活用して整備した土佐市高岡商店街の集客施設「ドラゴン広場」が4月1日にオープンしたほか、日高村の直販市「さんさん市」も産振補助金の採択を受けて年度内のリニューアルオープンを目指して準備を進めている。また、昨年度、関連するツアーの実績数を大幅に伸ばした仁淀川地域観光協議会の取り組みは、今年度も順調に入込客数を増やしており、引き続き地域内の観光資源の掘り起こしを図るとともに、県の観光施策とも連携してセールス活動を進めることとしている。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域の特色を活かした多様な農業の展開</p> <p>■No.3 薬用作物の産地拡大による所得の向上 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・農事組合法人ヒューマンライフ土佐</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ミヤマサイコ作付面積：70ha サシヨウ作付面積：80ha ダイダイ作付面積：30ha</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ミヤマサイコ作付面積：52ha サシヨウ作付面積：65ha ダイダイ作付面積：23ha</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミヤマサイコの実証圃での生育調査 ・薬用作物現地検討会の開催(6/17 生産者及び各振興センター) ・ツムラの意向把握(環境農業推進課) ・ツムラ、ヒューマンライフ土佐、越知町の良好な関係を維持するため、ツムラのCSR活動の企画・実施に参加 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産技術の確立 産地・生産者間の収量格差、発芽率が低いことによる欠株栽培技術に関する知識の不足。特に新規産地では収量が低い傾向

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 力強い高精度トマト産地の確立（仁淀川町、佐川町、日高村）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A コスモス ・ J A コスモス トマト 生産部会 	<p>⇒ 農業振興センター・山間試験室での実証試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規産地の育成 ・ ツムラとの連携体制の構築 <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売高：5.1 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売高：4.5 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培管理指導による栽培技術の向上 ・ 出荷販売計画の検討および出荷量確保のための個別支援、出荷データの分析 ・ 個別カウンセリングの実施 ・ 低収量農家の重点指導 ・ 光センサー等整備の検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低収量農家の重点的指導 ・ 光センサー導入等による集出荷体制の整備 ・ 新商品（消費者に選ばれる階級の商品）等の販路開拓のための、レシピの検討（トマト丼）、販売戦略の新たな展開
<p>「森の工場」などによる木材の増産体制の確立</p> <p>■No. 13 仁淀川流域における木材産業の振興（仁淀川地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林組合 ・ 林業事業体 ・ 素材生産業者 ・ 製材業者等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>素材生産量：6.3 万 m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>素材生産量：5.5 万 m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業説明会を開催し新たな補助事業等の周知を徹底 ・ 増産に取組む「森の工場」の事業体等の把握 ・ 森林経営計画作成の支援 ・ 製材工場の整備支援 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 増産に向けた体制づくりを的確に進める必要がある。 <p>⇒ 林業事業体の増産能力や体制づくりの具体的な進捗状況を把握するなど、事業体等との情報共有を図りながら取組を進める。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>「宇佐のうるめ」の消費拡大</p> <p>■No. 15 うるめのブランド化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組合宇佐もん工房 	<p>[目標(H27)]</p> <p>うるめ商品の販売額: 1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>うるめ商品の販売額: 5,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度の第1四半期の売上が、約11,700千円(前年比149%) ・土佐市内の飲食店が参加し、うるめを活用したメニューを提供する「一本釣りうるめ祭り」を開催(4月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度売上目標5,000万円の達成に向けて販路拡大が課題 <ul style="list-style-type: none"> ⇒積極的に見本市等に出展を行うとともに、新商品開発等に取り組み、販路拡大を目指す。 ・売上の増加に伴い原材料である、うるめの確保が必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒漁業者との良好な関係を継続し、増産に対応する。
<p>「土佐和紙」の販売の促進</p> <p>■No. 16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承(土佐市、いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町商工会 ・i-nos.net 他 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐和紙の販売額: 6.6億円(現状を確保)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額: 6.6億円(現状を確保)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねんりんピックのおもてなしグッズとして土佐楮100%の手すきはがきを制作・納品 ・手すき和紙職人の販路拡大を支援(地域需要創造型等起業・創業促進事業(創業補助金)の導入) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の高齢化が進み、販路拡大のための営業活動が不十分となっている。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒手すき和紙協同組合等と連携し、首都圏の美術大学や高級雑貨店等をターゲットに、版画・日本画の用紙や文房具等としてPRやセールス活動を行う。 ・土佐和紙の伝統や工芸品としての魅力をPRする支援にとどまっているため、製紙業全般についての支援が必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒フォローアップ会議に新たに製紙工業会からの委員を加え、業界と情報共有を図りながら、見本市の出展など支援策の検討を行う。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>仁淀川流域の広域観光の推進</p> <p>■No. 25「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進（仁淀川地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仁淀川地域観光協議会 ・ 土佐市 ・ いの町 ・ 仁淀川町 ・ 佐川町 ・ 越知町 ・ 日高村 ・ いの町観光協会 ・ 越知町観光協会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：730人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：56,000人 主要観光施設の入込数：140,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：2,500人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：54,000人 主要観光施設の入込数：138,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月末現在の仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数が1,712人（前年比178%）と数字を伸ばしている。 ・ 屋形船仁淀川が1隻運航から3隻運航に増船されたことや、佐川町の牧野富太郎ふるさと館・浜口邸の落成など、新たな観光資源の充実が図られた。 ・ 昨年に引き続きカヌー、ラフティングといった川遊びのメニューが好調を維持している。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県版ふるさと雇用事業を活用しているが、H27年度からの財源確保が課題 <ul style="list-style-type: none"> ⇒市町村の財政負担や協議会の事業規模等について、継続して協議を行う。 ・ ツアーの造成が進むことによって、現地でのアテンドや営業に向ける仁淀川地域観光協議会の人役が徐々に不足してきている。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒関係市町村と連携を図りながらサポートに努める。 ・ ツアーの造成数は順調に推移しているが、長期的に安定して誘客を行うためには、常に旅行会社やお客様に注目してもらえる楽しみ方の提案が欠かせない。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒研修会等を通じて市町村や観光施設の担当者の意識の醸成を図る。また定例の担当者会で素材の持ち寄りを行う。

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本川きじ生産組合 ・庭先農家 ・いの町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>本川きじの生産羽数: 6,800羽</p> <p>[H25到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数: 6,375羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうパック秋冬ギフトの申請 ・県中小企業団体中央会をアクションプランのチーム会に招き、きじ生産組合の法人化の検討を開始 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、売上が冬期に集中しているため、通年で販売できる商品開発が課題 ⇒7月から産振アドバイザーを派遣しており、生ハム等の新商品開発に取り組み中。 ・安定した生産体制の構築 ⇒孵卵率・飼育状況の把握と改善のため、中央家畜保健衛生所と連携して指導を行う。また経営の安定化に向けた生産組合の法人化や、出荷羽数の増に向けた鶏舎増築等の設備投資の検討を行う。
<p>■No. 17 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市商店街活性化推進協議会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>施設での販売額: 1.1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>直販所の売上: 62,000千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年4月1日、集客施設「ドラゴン広場」がオープン ・ドラゴン広場への4月～7月の来場者数が43,520人 ・ドラゴン広場の直販市の4月～7月の売上が15,789千円 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客のための仕掛けづくりや、安定した施設運営のノウハウ獲得が課題 ⇒イベント企画・開催によって集客を進めるとともに、今後も積極的に産振アドバイザー制度等を活用して、店舗の魅力づくりや情報発信を進める。 ⇒商工会、JA、テナント、行政をメンバーとする経営改善の定例会を開催して、サービスの向上と売上増の検討と実践を続ける。 ⇒直販所の出荷者を増やすため、集荷の仕組み作りや出展の呼び掛けを続ける。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町 ・いの町商工会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>いの町商店街の空き店舗率:20%未満(H23 25.3%)</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>いの町商店街の空き店舗率:21%未満</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーを派遣して、商店街でのイベント「よどがわ七色ロード」の実施方法の改善、テーマの設定方法の検討を行った(7月21日にイベント「いの職人見本市」を実施)。 ・商工会が、いの町中心市街地の再生に向けたプラン策定を行うため、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業に申請を行い採択決定。今後、ワークショップの運営やプランづくりなどに協力する予定 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の情報発信の拠点として昨年度オープンした「暮らしのかけ橋交流館なないろ」の効果的な運営 <ul style="list-style-type: none"> ⇒消費者と店主をつなぐ企画商品づくりや、PR活動の実施 ⇒「暮らしのかけ橋交流館なないろ」で実施するイベントや情報誌の充実を図る。 ・中心市街地再生のプラン策定については、実行性の高いものとするため、プレーヤーとなる事業者や住民の参加が重要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒プランが動き出した場面を想定してワーキングのメンバーを選定し、プランづくりをスタートさせる。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 19 地域産品を活用した冷菓等の製造販売 (いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)高知アイス 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>冷菓等の販売額：4.37 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>冷菓等の販売額：4.12 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金を活用してリニューアルした直営売店が4月20日にオープン ・販路拡大を目指し、海外(シンガポール、香港、アメリカ)の商談会等に積極的に参加 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで冬期は閉店していた直営売店は、リニューアルに合わせて通年で営業する予定のため、季節に合わせた商品の開発が課題 ⇒スイーツなど、夏期以外も販売できる商品開発に引き続き取り組む。 ・今後の需要拡大に対応した生産体制の強化 ⇒昨年度産振補助金を活用して、水道施設を改良しており、製造ラインをフル稼働することで増産に対応する。 ・H23の震災の影響で落ち込んだ売上が震災前まで回復しておらず、新たな販路拡大の取り組みが必要 ⇒海外販路の拡大に積極的に取り組み、H27の目標額である4.37億円の売上達成を目指す。
<p>■No. 20(株)フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進 (仁淀川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)フードプラン ・仁淀川町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：4.0 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：4.9 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーを派遣し、財務状況や売上目標、投資規模、加工施設の機能等を検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現施設でのカット野菜の生産能力が限界に達しており、生産規模の拡大を検討中であるが、投資規模が大きくなることが予想され、財源確保が課題となる。 ⇒企業において、財務面からみた借入限度額や設備投資を実施するための財務環境に係る資料を作成するとともに、金融機関の融資に対応できる詳細な事業計画の作成を検討する。 ⇒財源確保や今後の進め方について、仁淀川町で協議を行う。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)(日高村)</p> <p>《事業主体》 ・(株)エスエス</p>	<p>[目標 (H27)] 販売額：9,000 万円</p> <p>[H25 到達点] 販売額：4,000 万円</p> <p>[取組状況] ・日産 400 ケースを目指した生産体制の調整 ・ヒバを使った新商品の製造や他県の工場で製造していた商品の(株)エスエスへのシフト ・OEM 先であるアース・バイオケミカル(株)を訪問し、関係の維持と販売促進を要請(副知事、日高村、地域本部) ・OEM 先と連携した販路の拡大</p> <p>[課題と今後の対応] ・OEM 先の販促による製品の売上向上や製造コスト削減の取り組みが重要 ⇒OEM 先の情報を得ながら、フル操業に向けた協議を進める。 ⇒他県の工場で製造していた商品の製造と新商品の9月販売に向けた本格製造を進める。</p>
<p>■No. 32 歴史的風致維持向上計画の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》 ・佐川町</p>	<p>[目標 (H27)] 歴史的風致地区への入込客数：5,000 人</p> <p>[H25 到達点] 歴史的風致地区への入込客数：10,000 人</p> <p>[取組状況] ・観光拠点等整備補助金を活用して牧野富太郎の生家を復元整備し、富太郎ゆかりの資料展示施設「牧野富太郎ふるさと館」としてオープン(4月24日) ・観光拠点等整備補助金を活用した浜口邸の改修整備を完了し、一般開放(8月1日) ・さかわ観光協会発足(4月1日) ・牧野公園植栽のための苗を住民参加型で育苗 ・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス ・まち歩き観光ガイド(NPO 佐川くろがねの会)利用者数の増加(H23年度：3,472人→H24年度：6,746人、H25年度：4~7月で2,700人)</p> <p>[課題と今後の対応] ・歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備の推進 ⇒浜口邸の物産販売、観光情報発信機能の整備 ⇒住民参加による牧野公園植栽計画の推進</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進(越知町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など 	<p>⇒さかわ観光協会が中心となって、佐川くろがねの会との連携により、歴史的町並みを活用した体験観光づくりを進める。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>施設での販売額: 6,000万円 体験メニューの造成: 6メニュー 案内人養成数: 6人 ラフティングインストラクター数: 8人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>施設での販売額: 6,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者である越知町観光協会の指定管理業務から物販業務を除き、物販業務を所管する「おち駅物販経営協議会」を立ち上げた。 ・カヌー、ラフティングの利用者増加(H23年度;カヌー59人、ラフティング161人→H24年度;カヌー282人、ラフティング530人、→H25年度(4~7月);カヌー202人、ラフティング226人) ・カヌー、ラフティングガイド講習会の開催 ・横倉山案内人養成講座の開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物販販売体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒おち駅物販経営協議会において月次単位で販売動向の分析等を行い、販売現場の状況を反映したタイムリーな売上向上に取り組む。 ⇒POSシステムを活用し、日々の売上情報を配信することで棚空きを減らし、販売機会の損失を無くしていく。 ⇒年間の売上状況を提供することで計画的な栽培・出荷を促進していく。 ⇒会員の加入促進により商品の確保に取り組む。 ・体験観光メニューの充実 <ul style="list-style-type: none"> ⇒横倉山案内人養成講座を開催することにより、地域資源を活かした体験型観光のメニューを充実させる。
<p>■No. 36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日高村 	<p>[目標(H27)]</p> <p>体験型観光入込客数: 23,500人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験型観光入込客数: 15,700人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産振補助金を活用した直販所「さんさん市」のリニューアル(オープン予定:H26年3月) ・集荷の実施と生産者への出荷要請

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 37 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>・店舗責任者の農業創造セミナーへの参加</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・品揃えと販売の仕組みの磨き上げや、運営主体の経営・営業体制の強化が必要</p> <p>⇒商品確保に向けた生産者への周知、出荷者の増、集荷体制の確立を進める。</p> <p>⇒産振アドバイザー制度や農林水産物直販所支援事業を活用して、リニューアルに向けた売上向上と安定した運営のための準備を進める。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>体験型観光入込客数：23,500人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700人</p> <p>[取組状況]</p> <p>・5月から屋形船を1隻から3隻に増やして運航(乗船者数；H24年度1,785人(5/6～)、H25年度1,454人(4～7月))</p> <p>・屋形船仁淀川運航1周年記念イベント開催(5/3・4・5の乗船者数391人)</p> <p>・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス</p> <p>・屋形船の発着場周辺の整備計画について協議</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・観光の視点だけでなく、地域の実情に沿った拠点施設の整備が必要</p> <p>⇒役場内でのプロジェクト会議による検討や、地域住民との話し合いによる合意形成による施設整備を進める。</p> <p>・集客力の向上</p> <p>⇒モニターツアーによる課題整理や、村内の他の観光資源と連携したパッケージでの磨き上げを行う。</p> <p>⇒村内の観光資源PRのための媒体を作成</p> <p>⇒屋形船のホームページやブログを再構築して情報発信の強化を検討する。</p>

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化（日高村） ※審査会 4/16 交付決定 6/5</p>	<p>直販市「さんさん市」を拡充して販売量を増やすことで農家所得の向上を図る。また、村内の商工業製品を販売する物産館の機能を持たせることで、村内商工業者の商品販売による地域経済の活性化を図る。</p>	<p>136,530 (50,000)</p>

3 地域アクションプランの追加、修正、削除（予定）項目
該当なし

4 県民参画に向けた取組

- ・日高村行政連絡協議会で中山間対策（集落活動センター）の説明(4/21)
- ・越知町区長連合協議会で、産業振興計画シンポジウムのPR、中山間対策（集落活動センター）の説明(4/26)
- ・仁淀川流域交流会議で産業振興計画シンポジウムのPR(5/13)
- ・越知町商工会総会で土佐MBAの紹介、産業振興計画シンポジウムのPR(5/21)
- ・佐川町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/22)
- ・日高村商工会総会で土佐MBAの紹介、産業振興計画シンポジウムのPR(5/23)
- ・土佐市商工会総会、いの町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/24)
- ・いの町観光協会総会で県の観光動向、仁淀川流域への入込等について説明(5/29)
- ・商品開発や経営改善を目指す事業者等への土佐MBAの紹介(3件)

5 相談案件：10件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/4	和紙製品	手すき和紙製品の販路拡大
2	4/11	食品加工	ねぎを活用した加工製品の開発
3	4/22	食品加工	ゆず飲料用の県産ゆずの確保、非常時用の備蓄水の確保
4	4/23	茶生産者	茶の販路拡大
5	5/9	食品加工	県産の素材を活用した飲料商品の生産体制強化
6	6/7	地域活性化	中心市街地再生のための事業計画作り
7	6/21	健康福祉	食を通じた健康作り、介護予防
8	6/27	食品加工	県産の生姜を活用したスイーツ作り
9	8/5	製造業	竹炭製造、汚泥等を活用した固形燃料の生産
10	8/14	食品加工	山椒を活用した加工製品の開発

高幡地域アクションプランの進捗状況等について

H 2 5 . 9 . 1 3
高 幡 地 域 本 部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

昨年大きく動き出した海洋堂ホビー館や満天の星の取組は、海洋堂ホビー館は入場者数が昨年を上回っており、満天の星も昨年のオープン時に比較すると売上は減っているものの、本年度は県外へのPRに力を入れて取り組むこととしており、全国各地で開催される「おめざフェア」やデパート等での催事に積極的に参加している。

この2つの取り組みを中心に大きく動き出し、AP事業主体の意識が高まっているものと課題があきらかになったAPがでてきている。

AP事業主体の意識が高まっているものの代表が、「けんかま」が取り組むシイラ加工食品の生産拡大で、これまで産業振興アドバイザー事業や農商工連携事業を活用して取り組んだ結果、大きな販売先を獲得し、1ヶ月で昨年の売上を上回った商品も誕生している。このことが職員の意識向上にもつながり更なる飛躍を目指して取り組んでいる。

課題があきらかになった事業主体や新たにAPを目指す事業主体には産業振興アドバイザー制度を積極的に活用し課題解決などに取り組んでいる。

この結果、5つのAPが新たに加わる予定となっている。

また、6月7日に津野町で開催された産業振興シンポジウムには約270名が参加した。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
まとまりのある産地づくり ■No.1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上(須崎市、中土佐町、津野町) 《事業主体》 ・JA土佐くろしお ・JA四万十	[目標(H27)] 主要農産物販売額：H27園芸年度55億円 [H25到達点] 主要農産物販売額：H25園芸年度53.8億円 [取組状況](7月末実績) ・現地検討会、目慣らし会等(25回開催) ・栽培及び低コスト現地実証ほの調査・検討(39ヵ所) ・IPM技術実証圃の調査・検討(24ヵ所) ・排液及び循環型処理装置の実証・検討(4ヵ所) [課題と今後の対応] 栽培技術の定着化 ⇒実証圃の調査・検討の継続実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 中山間地域での持続可能な農林業経営の確立(栲原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 津野山 <p>■No. 3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化(四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 四万十 	<p>[目標(H27)]</p> <p>農協取扱主要品目売上：5.9億円 所得400万円以上の農家数：5戸</p> <p>[H25到達点]</p> <p>農協取扱主要品目売上：5.3億円 所得400万円以上の農家数：4戸</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培指導 栽培講習会5回、現地検討会8回、実証圃設置2カ所、個別巡回指導等50回(7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>平坦地なみの所得をあげるための進捗管理 ⇒個別巡回指導等の継続実施</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>ニラ販売金額：10億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ニラ販売金額：9.3億円</p> <p>[取組状況](6月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地検討会等の開催 ミョウガ1回、ピーマン2回、ニラ4回、露地ショウガ2回 ・ J A と連携した品目別経営分析説明会の開催 5品目(ミョウガ、ピーマン、ニラ、キュウリ、アスパラガ)参加率61% <p>[課題と今後の対応]</p> <p>重油高騰の影響 ⇒重油高騰の影響や対策等を加味した品目別経営分析の実施</p>
<p>森を活かす取組</p> <p>■No. 14 「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用(中土佐町、四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十町森林組合 ・ 須崎地区森林組合 ・ 四万十町内製材業者 	<p>[目標(H27)]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売 ：原木9,000m³、製品売上高2.7億円 F S C等森林認証面積：5,700ha F S C認証材製品売上高：20百万円 J A S 認定工場：1社増設</p> <p>[H25到達点]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売 ：原木7,000m³、製品売上高2.5億円 F S C等森林認証面積：5,644ha F S C認証材製品売上高：10百万円</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 15 循環型社会の構築を促進するための 森林資源の有効活用(栲原町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栲原町森林組合 ・栲原町 ・ゆすはらペレット㈱ 	<p>[取組状況] (7月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外商活動延べ115回(県内65回、県外50回) ・製品売上高4.46千万円 うちFSC製品3.6百万円 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客のニーズに応じた商品の開発・改良 ⇒アンケート等を実施して、商品の問題点等を検討 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材生産量: 5,000 m³ 認証材の販売量: 1,600 m³ ペレット原材料の調達: 3,900t ペレット生産量: 1,700t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材生産量: 2,800 m³ 認証材の販売量: 1,400 m³ ペレット原材料の調達: 3,900t ペレット生産量: 1,700t <p>[取組状況] (7月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業活動延べ32回(県内19回、県外13回) ・ペレット生産に関する協議(9回) ・認証材販売量383 m³ ・ペレット生産量537t <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FSC認証材の知名度をあげる ⇒営業活動の充実
<p>■No. 16 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進 (栲原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA津野山 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾燥シイタケの販売量: 11t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾燥シイタケの販売量: 8.9t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 県椎茸品評会への出展(5月) 全農全国椎茸品評会への出展(6月11日~13日) 椎茸生産部会 小部会(億産会)の開催(8月3日) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1億円産業に向けた戦略の策定 ⇒JA担当者や生産者部会と協議

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域の特産品を活用した商品づくり</p> <p>■No. 22 シイラ加工の生産体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合 ・興津漁協 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>加工品販売金額：15,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>加工品販売金額：15,000 千円</p> <p>[取組状況]</p> <p>通常総会開催 (5/30)</p> <p>商談 (2 件)</p> <p>従業員の常勤雇用 (6 月から)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原魚の確保及び経営管理、生産体制の強化 ⇒不足時の他所からの原魚購入の検討</p>
<p>■NO. 23 シイラ加工食品の生産拡大 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)けんかま 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>フィレ取扱数量：34t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>フィレ取扱数量：25t</p> <p>[取組状況]</p> <p>こうち農商工連携事業によるアドバイザーの招聘 (5 回)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>競合他社製品との差別化を図る仕掛け ⇒特許申請の検討</p>
<p>■NO. 27 「中土佐のうまいもん食わしちゃお」 商品開発プロジェクト (中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画・ど久礼もん企業組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>開発する商品数：5 商品</p> <p>売上高：28,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>開発する商品数：2 商品</p> <p>売上高：28,000 千円</p> <p>[取組状況] (7 月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 (かつおレアステーキ、海鮮丼のたれ) ・テレビ取材等によるPRの実施 (7 回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>ファーストフード店の経営安定 ⇒産業振興アドバイザー制度の活用等</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>6次産業化への取組等による拠点ビジネス</p> <p>■No. 29 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとセンター ・津野町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>高知店販売額：90 百万円 総販売額：162 百万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>高知店販売額：90 百万円 総販売額：156 百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工所・アンテナショップ満天の星 売上高：61,831 千円 (7 月末) (対前年比：73.8%) ・販売会議・経営会議・直販所連絡会・満天の星定例会での売上高の分析・改善強化などを実施 ・直販所 (6 ヲ所、満天の星直販部門含む) 売上高：36,417 千円 (6 月末) (対前年比 87.8%) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>十津店の改善 ⇒産業振興アドバイザー制度の活用</p>
<p>■No. 30 四万十町拠点ビジネス体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川 ・四万十町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 ：5 品目以上</p> <p>道の駅あぐり窪川販売金額：4.2 億円 アンテナショップ販売金額：4.5 千万円 常勤雇用者数：3 名</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 ：5 品目以上</p> <p>道の駅あぐり窪川販売金額：3.5 億円 アンテナショップ販売金額：4.3 千万円 常勤雇用者数：3 名</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町拠点ビジネス運営協議会 (7 月末実績) 総会 1 回 担当者会 2 回 生産者会 1 回 事務局会 3 回 販促イベント 3 回 ・道の駅あぐり窪川 売上高：59,471 千円 (5 月末実績 対前年比 132.5%) ・アンテナショップ しまんとマルシェ「四万十の蔵」 売上高：11,193 千円 (7 月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>アンテナショップのコンセプト、戦略等の見直し、強化 ⇒産業振興アドバイザーの活用</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>中心市街地の賑わいづくり</p> <p>■No. 24 須崎市まち全域がサービスエリア構 想推進事業(須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・須崎市まち全域がサービスエリア構想推進 委員会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>街角ギャラリー来場者数: 1万人 日・木曜日出展者: 80店 携帯サイトアクセス数: 10,000千件</p> <p>[H25到達点]</p> <p>街角ギャラリー来場者数: 4,000人 日・木曜日出展者: 60店 携帯サイトアクセス数: 6,000千件</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街角ギャラリー、旧三浦邸に地域おこし協力隊を導入 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新たなまちづくり ⇒須崎未来塾での検討</p>
<p>滞在型、体験型観光の推進</p> <p>■No. 31 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致 に向けた体制の整備(須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市観光協会 ・NPOすさきスポーツクラブ <p>■NO. 32 中土佐町の地域資源を活用した体験 型観光の推進(中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>民泊受入世帯数: 100世帯 教育旅行受入数: 10,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>民泊受入世帯数: 100世帯 教育旅行受入数: 5,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の営業: 50件(9月末見込み) ・教育旅行の受入: 4,500人(9月末見込み) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>民泊受入世帯の増加 ⇒受入世帯100世帯に向けた営業活動の実施</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>体験受入数: 2,300人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験受入数: 1,900人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上ノ加江漁業体験PR (高知市内の小学校4校、高知市老人クラブ連合会) ・上ノ加江漁業体験の実施: 8回 参加人数86人 (7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>人材の育成 ⇒インストラクター養成講座の開催</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 33 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町商工会 ・梶原町 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>宿泊者数：8,500人 施設利用者数：97,500人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>宿泊者数：8,300人 施設利用者数：90,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「梶原千百年物語り」情報発信拠点オープン(4/7) ・愛媛県へのイベント参加によるPR 4/20～21 砥部焼まつり ・主要宿泊施設宿泊者数：2,576人(対前年比：96.4%) (7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>梶原千百年物語りのPR不足 ⇒県内、愛媛県等周辺自治体に対するPR活動</p>
<p>■No. 34 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>主要宿泊施設年間宿泊者数：9,800人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>主要宿泊施設年間宿泊者数：9,500人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新茶PR・津野町ふれあい特産市、関連イベント(4回) ・県外向けラジオPR(8回) ・主要宿泊施設宿泊者数：3,494人(対前年比：110.1%) (7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>四万十川源流点観光拠点施設のあり方の検討 ⇒船戸地区でのワークショップ開催</p>
<p>■No. 35 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数28,748人(7月末実績)前年同期比112.0% ※のべ入館者数：178,590人(H23.7.9～H25.7.31) ・企画展開催：4回 「エヴァンゲリオンフィギュアワールド」3/16～5/27

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>「本格的美少女ディープフィギュアの世界」6/8～9/30 「打井川のお宝展」3/16～4/15 「土佐模型クラブジオラマ展」4/20～6/10 ※海洋堂かっぱ館入場者数 15,326人(7月末実績)</p> <p>[課題と今後の対応] ・海洋堂ホビー館を拠点とした滞在型観光の仕組みづくり ⇒観光協会や地元団体等との連携強化</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 12 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり(四万十町)</p> <p>《事業主体》 ・四万十町 ・営農支援センター四万十(株)</p>	<p>[目標(H27)] 施設稼働率：90% 移住者数：15組</p> <p>[H25到達点] 施設稼働率：90% 移住者数：8組</p> <p>[取組状況] ・クラインガルテン四万十の入居状況 滞在型 22棟 うち全棟入居 日帰型 16区画 うち利用 15区画(7月末) ・お試し滞在住宅運営状況 大正中津川 2組(2/12～4/11、7/5～8/4) 広井 1組(4/22～6/10) ・移住相談窓口での相談件数 52件(7月末)</p> <p>[課題と今後の対応] ・入居者の移住に繋がる仕組みづくり ⇒地域住民との交流促進、サポート体制の整備</p>
<p>■NO. 21 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進(中土佐町)</p> <p>《事業主体》 ・中土佐町</p>	<p>[目標(H27)] —</p> <p>[H25到達点] —</p> <p>[取組状況](7月末実績) ・観光物産センターを事務所移転し、情報発信機能を強化。 ・観光キャラクターを活用したPR活動 8回 ・「ぴんぴん鯉のタタキ」をイベントでPR：東京、大阪各1回 ・水産物加工施設整備に係る作業検討会の実施：5回</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	[課題と今後の対応] ・「ぴんぴ鯉」(少量、高価格)に次ぐ商品の開発及びブランド化の検討。 ・水産物加工施設の整備に向けた、販売戦略と事業構築等の検討 ⇒産業振興アドバイザーの活用

2 平成25年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 11 四万十の栗再生プロジェクト (四万十町)	・お茶栗カフェ兼加工場の整備 ・栗やお茶等を利用した商品開発及び加工	41,968(19,985)
■No. 8 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進(四万十町) ※ステップアップ事業	・直売所及び農家レストランの基本コンセプトの作成	1,890(900)
■No. 8 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進(四万十町) (農業振興部対応)	・「みどり市」の改修と「しまんとキッチン」の新設	111,597(50,000)

3 地域アクションプランの追加、修正(予定)項目

- [追加]
- 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大(須崎市)
 須崎市浦ノ内で生産している葉にんにくを使った「ぬた」の生産・販売の拡大を行う。
 - 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大(梶原町)
 梶原町内で生産しているキジ肉の外販及び町内での飲食を広め、後継者育成を含め生産・販売を拡大する。
 - 県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給(須崎市)
 高知市のAP18「県産竹材を用いた新規分野への製品展開」と連携したAPで、須崎地区森林組合が竹製品加工のために安定した竹材の供給を行う。
 - 四万十かおりビジネス事業(四万十町)
 四万十川流域のヒノキの間伐材、端材を活用し、ヒノキの香りを活かした商品の開発・販売を行い、森林の保全につなげる。
 - 地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大(須崎市)
 昨年開発したお魚チップスに地域の産品とのコラボ商品を開発し生産・販路の拡大を行う。

- [修正] ■N021 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
 (理由) 水産加工施設の整備を行うこととなったため
- N026 久礼の浜屋敷整備事業
 (理由) 町議会で否決されたことにより計画の再検討が必要となったため
- N037 四万十町の地域経済活性化の核となる宿泊事業への取組
 (理由) 地域の活性化のために検討する事業の範囲拡大及び事業実施主体の見直し

4 県民参画に向けた取組

○産業振興計画シンポジウムの案内


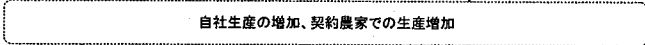
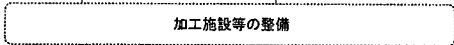
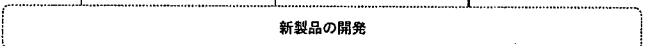
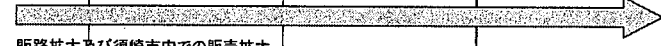
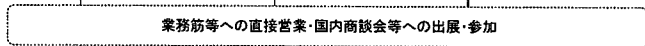
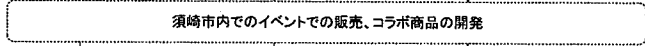
- ・津野町広報誌での案内
- ・地域アクションプラン事業者への案内
- ・地域団体への案内

○土佐MBAへの参加の働きかけ



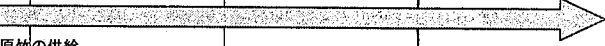
- ・(株)満天の星、JA四万十女性部、打井川地区会食部会、アースエイド など

5 相談案件：10件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/17	農業	さかなを使った肥料の開発について
2	4/24	観光	管理釣堀の設置について
3	5/15	食品加工	昆布養殖の産業化について
4	5/23	食品加工	加工場の整備の補助金について
5	5/30	食品加工	四万十川流域の安心安全な食材を使った加工品の販売について
6	6/4	商工	四万十町内へのホテル建設について
7	6/11	食品加工	葉にんにくのぬたの販売促進について
8	7/18	販売戦略	サンシャイン四万十を核とした四万十の地場産品の販売戦略について
9	8/12	林業	展示場の整備
10	8/14	観光	四万十生姜プロジェクト

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					売上額:5,000千円(H25見込み)	20,000千円
	生産の拡大					
						
						
						
						
	販路拡大及び須崎市内での販売拡大					
						
						

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					販売額 H24: 10,869千円	30,000千円
	品質の向上と出荷体制の強化					
	飼育環境の改善、加工施設の検討、 熟成システムの構築					
		生産加工施設、熟成施設等の整備				
		生産者の増加、生産量の拡大				
	販路開拓					
	販促資材の作成					
		業務筋等への直接営業・国内商談会等への出展・参加				
	地元でのキジ肉消費向上					
	各種イベントでの販売、地元飲食業者と協働した新メニューの検討					

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	 <p>事業地(竹林)の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査による竹林状況の把握 ・竹林所有者との交渉による同意の取得 ・効率的かつ継続的に生産可能な事業地(竹林)の確保 				原竹供給本数	30,000本/年
	 <p>機械設備の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックホウ (0.16m³・4t) ・グラブブル (アタッチメントのみ) ・運搬車 (不正地走行用) ・トラック(4t) ・チップパー (竹先端処理用) ・H型钢柱 (竹材集積用)等 					
	 <p>原竹の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹材の低コスト生産システムと安定供給体制の構築 ・竹材の安定供給 					

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
42 地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大 《須崎市》	H24に農商工連携事業を導入し、初めての菓子製造となるお魚チップスを開発し3種類の味で販売している。今後は、地元産の野菜などのコラボ商品を開発するとともに販路の拡大を行う。	・関けんかま			◆業態拡大計画の策定 ◆菓子製造のための体制づくり ◆販売の拡大

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	<p>業態拡大計画の策定</p> <p>菓子製造事業を展開できる体制と整備の道づくり</p>	<p>菓子製造のための体制づくり</p> <p>菓子製造のための組織体制づくり</p> <p>加工機器等の整備</p>			販売袋数:約6万袋 (H25見込み)	15万袋
		<p>販売の拡大</p> <p>商品開発・試作品生産</p> <p>市場調査・商品改良</p> <p>販促資材等の作成</p>				

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
観光物産センターの設立					→		
観光物産センターの設立	観光物産センターの活動の展開						
地域物産品の販売促進活動					→		
地域製品の販売先の開拓と流通販売の拡大							
スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓					→		
商標登録	県内外への販売ルート開拓と安定した供給体制の確立						

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
観光物産センターの設立					→	商品販売高 (H24:8,408千円)	25,000千円
観光物産センターの設立	観光物産センターの活動の展開						
地域物産品の販売促進活動					→		
地域製品の販売先の開拓と流通販売の拡大							
スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓					→		
商標登録	県内外への販売ルート開拓と安定した供給体制の確立						
水産加工場等の整備					→		
水産加工場、付帯加工施設等整備							

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
<p>26 久礼の浜屋敷整備事業 《中土佐町》</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">修正前</p>	<p>久礼新港背後地において、中土佐町の豊かな自然や食材、伝統文化や人といった地域資源を有効に活用して、町全体の賑わいの創出につながる施設等を整備し、所得向上や雇用の創出をはじめ町全体に経済効果を波及させる。</p>	<p>・中土佐町</p>	<p>・久礼新港背後地利用計画(H22~23) ◆久礼新港の背後地利用については、「まちづくり検討委員会」や関係者と賑わいの創出に繋がる施設整備に向けて協議検討するとともに、用地取得や経営計画策定業務を委託するなど具体的に動き始めた。</p> <p>用地取得完了 (買収面積A=9,752.04m2)</p> <p>温泉掘削作業完了 (泉温31.5℃、湧出量53L/min)</p>	<p>・施設の運営管理者の決定及び育成 ・計画に参画する多様なニーズを持つ関係者との調整 ・津波避難対策</p>	<p>◆久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備</p> <p>◆津波避難路の整備</p> <p>◆賑わいの創出への展開</p>

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
<p>26 久礼の浜屋敷整備事業 《中土佐町》</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">修正後</p>	<p>久礼新港背後地において、中土佐町の豊かな自然や食材、伝統文化や人といった地域資源を有効に活用して、町全体の賑わいの創出につながる施設等を整備し、所得向上や雇用の創出をはじめ町全体に経済効果を波及させる。</p>	<p>・中土佐町</p>	<p>・久礼新港背後地利用計画(H22~23) ◆久礼新港の背後地利用については、「まちづくり検討委員会」や関係者と賑わいの創出に繋がる施設整備に向けて協議検討するとともに、用地取得や経営計画策定業務を委託するなど具体的に動き始めた。</p> <p>用地取得完了 (買収面積A=9,752.04m2)</p> <p>温泉掘削作業完了 (泉温31.5℃、湧出量53L/min)</p>	<p>・施設の運営管理者の決定及び育成 ・計画に参画する多様なニーズを持つ関係者との調整 ・津波避難対策</p>	<p>◆久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備</p> <p>◆津波避難路の整備</p> <p>◆賑わいの創出への展開</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営管理者の検討及び運営体制の確立及び地元協議 ・基本設計、実施設計 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>津波避難路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波避難路設計 ・津波避難路整備 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>賑わいの創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の掘り起こし ・商品開発、メニュー検討 ・運営方針の協議検討 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>施設の活用に関して協議、検討</p> </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>・運営開始</p> <p>・賑わいの創出への営業方針の展開</p> </div>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H26	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営管理者の検討及び運営体制の確立及び地元協議 ・基本設計、実施設計 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>津波避難路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波避難路設計 ・津波避難路整備 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>賑わいの創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の掘り起こし ・商品開発、メニュー検討 ・運営方針の協議検討 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>・運営管理者の決定</p> <p>・施設整備</p> <p>・施設の活用に関して協議、検討</p> </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>・運営開始</p> <p>・賑わいの創出への営業方針の展開</p> </div>						

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 事業計画の作成及び関係機関との調整 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 収益調査の実施と調査結果をふまえた事業計画の作成 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 宿泊施設の整備 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">ホテル建設</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;">ホテル運営</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 体制づくりと人材育成 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 商品開発及び販路開拓 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 地域資源の掘り起こし及び地域との連携強化 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 商品開発、宣伝(HP等宣伝ツールの作成)、販路開拓 </div>						

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 事業計画の作成及び関係機関との調整 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 収益調査の実施と調査結果をふまえた事業計画の作成 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 拠点施設の整備及び商店街活性化事業の運営 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">商店街活性化事業の計画策定</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;">施設整備計画、施設整備、施設運営</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 体制づくりと人材育成 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 商品開発及び販路開拓 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 地域資源の掘り起こし及び地域との連携強化 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 商品開発、宣伝(HP等宣伝ツールの作成)、販路開拓 </div>						

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市	素材名 関連素材	葉にんにく 麦味噌、白味噌、三温糖
現状・課題	<p><現状> 化学肥料を一切不使用の葉にんにく及びにんにく球の生産・販売 葉にんにく、にんにく球を使用した加工食品の製造販売 加工品は、大豆、大麦、塩、全て国産100%の麦味噌、白味噌のみ使用。合成保存料、合成着色料一切不使用。 H25年8月12日に株式会社として法人化。</p> <p><課題> 販路拡大を行い、高知市内の加工会社を通じ、東京の料亭やホテル、また福岡県内のホテルチェーンからの注文がある。現在は1人で生産を行っており他に販路を拡大していく余裕がない。 葉にんにくの増産。 他の商品の開発。</p>		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・自社での葉にんにくの生産増加 ・契約農家等での葉にんにくの生産 ・増産するための加工施設の設置 ・新商品の開発 ・販路拡大 		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大			
	関係市町村名	須崎市			
事業の概要	<p>1. 生産の拡大 葉にんにくの生産量を増加（自社、契約農家）し、商品の増加を行う。</p> <p>2. 販路拡大及び須崎市内での販売拡大 県外市場への販路拡大。須崎市内での提供店舗の発掘。</p>				
事業主体等	<p>【事業主体】 ・(株)アースエイド</p> <p>【関係機関】 ・契約農家（よさこいファーム、小田切農園、北川農場）</p>				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	生産の拡大	葉にんにくの生産増加	契約農家の発掘		
指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	売上高	5,000千円（見込み）	12,500千円	20,000千円	30,000千円
	【設定根拠】	【推計の考え方】 現在の売上状況からH25は少なくとも5,000千円の売上が見込める。葉にんにくは12月から2月にかけて収穫するが、作付けが前年度の3倍程度あることからH26は少なく見積もって12,500千円を見込み。その後も契約農家の増加等による作付けの増加やH26には生産体制（加工施設など）の強化を図ることから売上高の向上を見込んでいる。			
		【考え方】			
総事業費等	<p>総事業費 30,000千円（うち25年度 14,500千円） （内訳 国：10,000千円 県：10,000千円 市町村： 其他：10,000千円）</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他） 国：10,000千円 県：産業振興総合補助金10,000千円 人的支援：国（10,000千円） 其他： 起業支援型地域雇用創造事業</p>				
備考					

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	梶原町	素材名 関連素材	キジ
------	-----	-------------	----

現状・課題	<p><現状> 梶原町のキジの生育は昭和50年代から行われており、数戸の生産者が高麗キジの成育を始め、加工孵化等を行っていた。梶原町の指導の下、昭和60年4月に「梶原町雉生産組合」を設立した。 現在8名の生産者が約5,000羽のキジの雛を育成しており、地元道の駅などの直販所やインターネット、口コミでの販売を行っている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者が一時期18名いたが、現在は8名となっており、高齢化と次世代の後継者不足 売上は、ネット販売を実施しておりリピーターも多いが、新たな商品開発と販路の確保が必要 町内の飲食店での提供体制とPR 品質向上のための飼育環境の改善
	<p>今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 梶原町内の飲食店での提供を促し、PRを実施 首都圏への販路拡大 品質の向上を行い、付加価値を付けて価格の上昇を行い、生産者の所得向上を目指すとともに後継者の育成を行う。

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	梶原産キジ肉の生産・販売の拡大			
	関係市町村名	梶原町			
事業の概要	1 品質の向上と出荷体制の強化	キジ肉の肉質向上に向けた飼育環境の改善やアドバイザーの導入。加工施設等の整備。			
	2 販路開拓	飲食店や百貨店等への販路拡大に向けた、商談会への参加。			
	3 地元でのキジ肉消費向上	地元飲食店でのキジ肉の消費向上。新たな加工商品の開発。			
事業主体等	【事業主体】 ・梶原町雉生産組合	【関係機関】			
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	品質の向上と出荷体制の強化	アドバイザーの導入や飼育環境の改善加工施設の検討、熟成システムの構築			
		生産加工施設、熟成施設等の整備			
		生産者の増加、生産量の拡大			
販路開拓	販促資材の作成 業務筋等への直接営業 国内商談会への参加・視察	業務筋等への直接営業 国内商談会への参加	業務筋等への直接営業 国内商談会への参加	業務筋等への直接営業 国内商談会への参加	
地元でのキジ肉消費向上	料理の開発	取扱店の拡大	新たな商品開発		
指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	売上高	20,000千円	25,000千円	30,000千円	50,000千円
	【設定根拠】	【推計の考え方】 ・生産雉数の増加、肉質の向上、生産者の増加により取引量増加を行う。			
仕分	P(保)	【考え方】	【考え方】		

総事業費等	総事業費	千円	(うち25年度	千円)	その他:	千円)
	(内訳 国:	県:	千円	市町村:	千円)	
備考	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)	国: 産業振興総合補助金 人的支援:				
	国:	県: 産業振興総合補助金				

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市	素材名	竹
		関連素材	
現状・課題	<p><現状> 現在、自動車用竹製ハンドルの製造を南国市の㈱ミロクテクノウッドで、またその前処理加工を高知市の㈱コスモ工房で行っており、竹製ハンドルの増産計画や新商品の開発計画があるが材料となる竹材の確保が課題である。</p> <p>竹材は、土佐市の弘田竹材店が集荷して㈱コスモ工房に納入しているが、竹材生産は個人の生産者が多く高齢化しているため竹材の安定的な供給ができていない状況にある。このため、須崎地区森林組合では、平成25年2月から3月にかけて試験的に竹材の出材を行った。</p>		
	<p><課題> 竹材を搬出するための事業地（竹林）が必要であるが、須崎地区森林組合の管内の竹林は小規模で点在しているため、管轄外市町村での事業地（竹林）の確保が必要である。</p> <p>また、竹林（事業地）を集約して路網を整備するとともに、竹材を効率的に出材するためには林業用機械等資機材の整備が必要である。</p>		
今後の方向性	<p>竹製ハンドルが好評で搭載車種の増加が検討されるとともに、新商品の開発も検討されていることから、今後も竹材の需要が見込まれる。このため、須崎地区森林組合が竹材の安定供給を行うことにより、県産竹材を使用した取り組みを支援するとともに、新規就業者の雇用及び森林組合の収益向上につなげる。なお、竹材の納入時期については協議中であり、受け入れの可否も含めて9月末に決定予定である。</p>		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給			
	関係市町村名	須崎市			
事業の概要	<p>県内で実施している竹製品製造業者に対して原材料である県内産の竹材を安定的に供給することにより地域産業の発展に貢献するとともに森林組合の収益向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。併せて、竹林の拡大により荒廃した里山林の整備をおこなう。</p> <p>1. 事業地（竹林）の確保 竹材搬出のための事業地の調査及び地権者との交渉により、県産竹材の安定供給に必要な竹林を確保する。</p> <p>2. 機械設備の導入等 竹材搬出作業に必要な下記の機材を導入するとともに新規従業員を2名雇用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> バックホウ (0.16m³・4t) グラブブル (7t/1台のみ) 運搬車 (不正地走行用) トラック (4t) チップパー (竹先端処理用) H型鋼柵 (竹材集積用) <p>3. 原竹の供給 竹材を低コストで安定的に供給するシステムを構築するとともに、年間を通して竹材を安定的に供給する。</p>				
事業主体等	<p>【事業主体】 ・須崎地区森林組合</p> <p>【関係機関】 ・弘田竹材店 (土佐市) ・㈱コスモ工房 (高知市) ・㈱ミロクテクノウッド (南国市)</p>				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	事業地（竹林）の確保	→ (8/20現在15ha確保済)			
	機械設備の導入	⇒			
	原竹の供給	→			
指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	竹材供給本数	5,000本/年	30,000本/年	30,000本/年	30,000本/年
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】 事業地面積 30,000本×3年÷6,400本/ha=約15ha 原竹生産本数 H25は2,500本/月×2ヶ月 H26以降は 2,500本/月×12ヶ月で算定</p> <p>【考え方】</p>			
総事業費等	<p>総事業費 16,229千円 (うち25年度 16,229千円)</p> <p>(内訳 国: 県: 10,818千円 市町村: その他: 5,411千円)</p> <p>想定する支援事業 (補助金名称、人的支援の内容、その他) 国: 県: 高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援: その他:</p>				
備考					

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十町	素材名	四万十ヒノキの間伐材
		関連素材	ひのきオイル

現状・課題	<p><現状></p> <p>高幡地域アクションプランN014で推進している「四万十ヒノキ」のブランド化については、平成23年8月、広域4市町村（四万十町、中土佐町、四万十市、三原村）で連携して「四万十ヒノキブランド化推進協議会」を発足した。平成25年度の目標は、原木生産7,000m³、製品売上2.5億円とし、FSC認証材（原木）等の販売促進に取り組んでいる。</p> <p>四万十ヒノキを活用した加工品としては、大手メーカーの机や椅子、家具等を製作している（四万十町森林組合）ほか、「四万十のひのき風呂」（株）四万十ドラマや「ひのきオイル」（株）エコロジー四万十等の商品も開発、販売されている。</p>
	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、APの動きとしては、「四万十ヒノキ」の地域団体商標登録を目指しているが、全国に対してネームバリューが弱く、FSC認証材の販売や高付加価値化への取り組みは苦戦している。今後、木材業界だけでなく、エンドユーザー（生活者）の目線から認知度を高めていく必要がある。 ・間伐材等を活用した加工商品も、直販所等での品揃えアイテムとして販売しているが、「四万十ヒノキ」を軸とした商品開発には至らず、地域産業として確立できていない。
今後の方向性	<p>四万十川流域の地域産品である「四万十ヒノキ」の間伐材や端材を活用した商品を開発し、首都圏を含め広く一般消費者向けに流通、販売していくことによって、「四万十ヒノキ」の認知度を高め、ブランド化につなげる取り組みを進めていく。また、ヒノキ商品の生産加工は、地域の工務店や木工グループを活用することによって、地域の活性化を図る。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十かおりビジネス事業
	関係市町村名	四万十町

事業の概要	<p>○1トンの「間伐ひのき」から1リットルの「ひのきオイル」が抽出される。</p> <p>○間伐材の天然成分を使った商品開発を行うことにより、森を育てる。</p> <p>○「木材」としては売れない木を「かおり」と捉えることにより、新しい商品、産業を創出する。</p>				
	<p>1. 商品開発</p> <p>「四万十ヒノキ」の認知度を高めるため、ノベルティ商品や記念品、イベント景品等としての活用を企業や自治体等に働きかけ、ニーズに合った商品を開発。</p> <p>2. 販路開拓、販売促進</p> <p>県内外の銀行、観光業、百貨店、出版社、官公庁 等</p> <p>3. 生産体制の確立、施設等整備</p> <p>生産体制の確立及び加工場の新設 等</p>				
事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>(株) 四万十ドラマ</p> <p>【関係機関】 (株) エコロジー四万十、四万十町森林組合</p>				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	商品開発	・試作品の開発 ・モニタリング調査	・商品開発		
	販路開拓、販売促進 人材育成	・モニタリング調査と合わせた営業活動 ・雇用の確保（営業）	・販路開拓、販売促進 ・人材育成		
指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	商品開発数 商品販売高	3商品 1,500万円	3,000万円	4,000万円	5,000万円
仕分	【設定根拠】	【推計の考え方】			
		<ul style="list-style-type: none"> ・原価率30%、営業経費20% ・1名新規雇用（営業担当） 			
総事業費等	総事業費	千円（うち25年度 千円）			
	（内訳 国： 県： 市町村： その他：）				
備考	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	<p>県： 地域林業総合支援事業、産業振興総合補助金</p> <p>その他： 人的支援：</p>			

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市	素材名	魚肉すり身（シイラ、メジカ、その他）菓子
		関連素材	ミョウガ、ショウガ、タケノコ、シイタケ、お茶など

現状・課題	<p><現状></p> <p>●けんかまは興津マヒマヒ丸と連携してシイラのすり身技術を開発し、マヒマヒ竹輪を平成23年3月から販売を始めた。このマヒマヒ竹輪は農林水産大臣賞の受賞などその品質の高さが評価されたが、社会情勢の変化でねり製品の低価格競争が激化し、販売数量は計画数量を大きく下回った。このため24年度から「こうち農商工連携事業」を導入し、シイラのすり身やマヒマヒ竹輪の菓子・惣菜加工製品の開発販売を行った。この結果、本来水産物が持っている健康食材というだけでなく、様々な素材との結びつきの良さが再確認され、現在「シイラ+青さのり」「シイラ+メジカ」のお菓子、さらには「マヒマヒ竹輪+カニかま」「マヒマヒ竹輪+四方竹」などの惣菜加工品が、首都圏デパートバイヤー等から注目され、販売数量が増えている。</p> <p>●蒲鉾業者としてけんかまにはすり身、焼き、揚げる、蒸すといった技術とねり製品生産ラインがあるが、菓子の加工は現在手作業で行っており、生産量に限界があり今後の需要拡大に支えられないだけでなく、経営資源を新たな商品開発に注ぐことが困難になっている。このような菓子製造事業には、すぐに類似の追随商品が出てくることから、常に新しい商品の開発が当該事業を継続する必須条件と言われている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・菓子製造の効率的生産力の取得 ・新商品開発力とそのスピードの保持 ・首都圏における戦略的な販売活動
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水産物練加工業から菓子製造業への業態拡大 2. 菓子製造の生産量の拡大 3. 新商品開発力と開発速度の維持・増大 4. 須崎の地魚など高幡地域の豊富な食素材の活用（高幡地域の食材を活かすための県内食材の活用も含む） 5. 周辺地域の特産品素材や生産物との連携 6. 首都圏への戦略的販売活動の展開

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大
	関係市町村名	須崎市（栲原町、津野町、中土佐町、四万十町）

事業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業態拡大（菓子製造）構想・ステップアップ計画の策定 水産練加工業からお菓子製造の事業を展開できる体制と設備等の道づくり 2. 菓子製造のための施設改修及び加工機器類の整備 加工場のための施設改修、包装機、充填機、レトルト加工機等の整備 3. 加工品開発力及びスピードの維持増大 視察研修及び工業技術センター、外部アドバイザー等によるプロジェクトチームの常態化 4. 試作品（市場調査）と販促資材（営業活動）の制作 試作品による試食等市場調査及びパンフ、幟等販促資材の制作
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 株式会社 けんかま</p> <p>【関係機関】須崎市（栲原町、津野町、中土佐町、四万十町）、工業技術センター、JA津野山、JA土佐くろしお、JA四万十、etc</p>
-------	---

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	業態拡大計画の策定		菓子製造事業を展開できる体制と設備の道づくり		
菓子製造のための体制づくり			菓子製造のための組織体制づくり		
販売の拡大				商品開発・試作品生産	
				市場調査・商品改良	
				販促資材等の作成	

指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】	
		販売袋数	約6万袋	127,500袋	150,000袋	
	【設定根拠】	【推計の考え方】 H25. 1月～8月の実績を基に廃止品目、新商品を考慮して算定。				
		【考え方】				

総事業費等	総事業費	20,000千円	(うち25年度 千円)	
	(内訳 国: 県: 市町村: 其他:)	10,000千円		10,000千円
想定する支援事業	(補助金名称、人的支援の内容、その他)	産業振興総合補助金		
	国: 県: 其他: 人的支援:	10,000千円		

備考	
----	--

幡多地域アクションプランの進捗状況等について

H 2 5 . 9 . 1 3

幡 多 地 域 本 部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

アクションプラン 42 案件は、昨年度まで、積極的に補助金の導入やアドバイザー制度を活用してきたなかで、特に、農林水産物の加工分野では、新商品の開発や販路の拡大等、事業者の地産外商に向けた意識が一層高まっており、本年度（上半期）も産業振興推進総合支援事業費補助金の採択を受けて、事業規模の拡大や拠点施設の整備に着手する案件があるなど、概ね順調に進捗している。

農業分野では、三原村のユズの産地化の取組が5年目を迎え、栽培面積の拡大が進むとともに、新たに新規就農者のための研修施設を整備し、農業後継者の育成やU・Iターンの受入にも取り組むこととしている。また、宿毛市では、洋ラン製品の集積化による販売促進に取り組んでいる。

林業分野では、森の工場が幡多管内で 29 地区認定され、作業員の継続的な就労と事業体の経営安定並びに作業道整備による生産性の向上が図られている。

水産業分野では、昨年度整備した大月町の養殖種苗施設において、シマアジの出荷が始まっており、加工分野においても、宿毛市の民間事業者による加工施設の拡張整備が予定されるなど、製造の拡大及び販売促進に取り組んでいる。

商工業分野では、幡多地域の東の玄関口となる黒潮町佐賀地域に、新たな拠点施設となる道の駅整備が着工され、地域製品の販売や交流人口の拡大に取り組むこととしている。

観光分野では、7月1日に開幕した「楽しまん！はた博」は、プレイベント（6/29～30）、黒潮町での「砂と光のアート展」、土佐清水市での「花火大会」の開催など、各地域で特色あるイベントや体験プログラムが展開されている。

(2) 具体的な動き

①地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>安定した農業経営体づくりと地域に根ざした有望品目づくり</p> <p>■No.1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成（幡多地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 高知はた 	<p>[目標 (H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 販売額 1,500 万円以上の農業経営体 10 経営体 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 経営体 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模志向農家ネットワーク(8名)の構築、有望品目の検討 ・ プロコリ-大規模経営に向けた研修会の開催(6/14:14名) ・ 大規模農家経営に関する研修会の開催(9/6 予定)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 2 洋ランのブランド確立・流通促進事業 (宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 蘭遊 六志会 ・ 石田蘭園 <p>■No. 4 三原村農業公社を核とした農業支援システム の構築(三原村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (財)三原村農業公社 ・ 三原村 ・ JA高知はた 	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークを活かした大規模農家の育成 ⇒品目別経営モデル、農家作業管理システムの周知 ・ 農地集積と雇用確保が課題(仕組みづくり) <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 128,300 千円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高 108,600 千円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H25. 5. 27～6. 1 に蘭遊六志会が中国で販路開拓 ・ 産振補助金の採択通知(H25. 8. 20) ⇒集出荷施設(1式)と販売促進事業(1式) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 販路の開拓 ⇒蘭遊六志会6名で、IFEX(10/9～11)に出展 ⇒同じく@豊明花き(愛知県)に出展 ⇒HP及びネットショップの立ち上げ ⇒11月14日に「めざましテレビ」スタジオを蘭遊六志会の花が演出 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユズ栽培面積 50ha、果実生産量 400t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユズ栽培面積 37ha、果実生産量 120t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと雇用事業で5名、緊急雇用事業で10名(JA8名+公社2名)を雇用 ・ 栽培面積が31haに拡大(内、公社15.6ha)、果実生産量91t ・ ユズの青果出荷率は向上(H23:4.2%→H24:10.2%) ・ 月1回のユズ栽培技術講習会を継続中(青果出荷率向上) ・ 第2期ユズ産地化計画の策定(H24:31ha→H27:50ha) ・ 研修施設の整備 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 更なるユズ産地拡大と後継者育成 ⇒青果率の更なる向上(現状:10%→目標:40%) ⇒研修施設整備で後継者育成 ・ 獣害(シカ、ウサギ等)の被害対策(防護柵等)の必要性 ・ 販路開拓

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 7 有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町 ・JA高知はた 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花き栽培面積 15ha ・野菜栽培面積 6ha <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花き栽培面積 18ha ・野菜栽培面積 3ha <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある園芸産地活性化事業による、点滴灌水実証圃2戸(カスミソウ・ニラ)の継続実施 ・用水対策現地調査(5月～6月 各1回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>南部地域は慢性的な水不足であり、水源地(用水量)の調査及び確保</p> <p>⇒地権者協議と揚水方法(経費)の検討</p> <p>点滴灌水実証圃の検証、点滴栽培に向けたマニュアルの作成</p>
<p>■No. 21 直七の生産、加工、販売の促進(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合 ・直七の里(株) 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量 100t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量 70t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で1名を雇用 ・取引企業者数約100社(商談中含む) ・新商品(直七カクテル:田野町濱川商店)の試飲会 7/5:てんこす、宿毛市椰子、7/5～7:まるごと高知 ・直七の日(10/7)にイベント予定 ・H24の搾汁は25.3t(H23の154%)に増加 ・直七マダイ(すくも湾漁業協同組合と連携) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搾汁施設の稼働率向上 <p>⇒直七以外の搾汁を実施</p>
<p>■No. 27 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)しまんと美野里 ・四万十川を良くする会 ・四万十市 ・西土佐商工会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 8t ・原材料(生栗)の仕入量 12t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t ・原材料(生栗)の仕入量 10t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品新サービス開発支援事業(全国商工会連合会)を導

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>入し、アドバイザーの招聘、新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業への営業活動 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原材料の確保</p> <p>⇒集荷の継続実施</p> <p>出荷まで至っていない栗の発掘(新規開拓、栽培管理、収穫支援等)</p> <p>J A等関係機関との協議</p>
<p>森林資源の活用促進</p> <p>■No. 8 森の工場・間伐の推進(幡多地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の認定を受けた事業者 <p>■No. 10 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市 <p>■No. 11 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町備長炭生産組合 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の木材生産量 20,000 m³ <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場の木材生産量 20,000 m³ <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の工場を新たに3工場設立(計29工場) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>木材価格の低下(特に檜材)</p> <p>⇒作業効率の向上(作業道路整備、高性能機械の導入)</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四万十の家」着工戸数30戸 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四万十の家」着工戸数25戸 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市産材利用促進事業の継続実施(受付件数16件) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>四万十ヒノキのPR強化</p> <p>⇒四万十ヒノキブランド化協議会での検討及び各種イベントへの参加</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備長炭販売量240t、生産窯20基、生産者20人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備長炭販売量107t、生産窯9基、生産者9人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金により、新たに製炭窯(4基)がH25.2月に完成(計7基) ・ふるさと雇用事業で1名、緊急雇用事業で1名を雇用 ・下級品の販路拡大(枕メーカーに納入) ・製炭窯のメンテナンスを実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製炭窯の稼働率向上と原木確保 <ul style="list-style-type: none"> ⇒夏場の稼働率向上(6月下旬から全窯(7基)稼働中) ⇒原木山と伐採人役を確保(生産量の向上) ・体制の整備・強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒大月町備長炭生産組合を法人化
<p>安定した漁業生産を目指す取組</p> <p>■No. 15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)沖の島水産 <p>■No. 20 大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町 ・(株)山崎技研 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 11,700 千円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 50,000 千円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目指せ弥太郎商人塾：白井クラス」でH25受講中 ・産振補助金の採択通知(H25.7.1) <ul style="list-style-type: none"> ⇒水産加工施設整備(1式) ⇒販路開拓、販売促進事業(1式) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催事売り上げの継続 <ul style="list-style-type: none"> ⇒京阪神百貨店等での催事売り上げを継続(170万円/回) <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ 100 万尾、シマアジ 50 万尾 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ 40 万尾、シマアジ 30 万尾 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 6 名(H25.6月時点) ・産振補助金により、マダイ、シマアジ等の海上育苗施設を整備 ・シマアジ特大サイズ 13.1 万匹出荷(H25.8月末) ・H24 にイサキ 30 万匹、H25 には 40 万匹をすくも湾へ放流、H24 にノコギリガザミ 27 千匹、H25 には 97 千匹を浦戸湾等へ放流。 ・H25.8 末カンパチ幼魚 1,300 匹(約 380g)を古満目で継続飼育中 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンパチの種苗技術確立 <ul style="list-style-type: none"> ⇒県の水産試験場と連携して技術確立を目指す

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 34 カツオ文化のまちづくり事業(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町商工会 ・黒潮町 ・高知県漁協 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口 16,000 人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口 18,000 人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮一番館の休館日(火曜日)の活用策として、漁協女性部による「びりびり市」の開催 ・「まるごと高知」で、カツオのタタキ(真空パック)、タタキのたれをテストマーケティング(9/14~15 予定) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>カツオ文化のまち佐賀の周知</p> <p>⇒メディアを活用したPRや町内外イベントでのPR活動</p> <p>新たに整備する道の駅との連携</p> <p>⇒道の駅ワーキング委員会において具体策の協議</p>
<p>地域産物を活用した6次産業の振興</p> <p>■No. 12 地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくも湾漁業協同組合 <p>■No. 13 宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ピアーサーティー 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍フィレ 30t、冷凍キビナゴ 15t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍フィレ 19.0t、冷凍キビナゴ 10t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で4名を雇用(加工3名、輸送1名) ・H25.2月末現在の取引先36社(高知県内外の病院、学校給食用に営業を実施) ・居酒屋チェーン店にキビナゴ凍結を納入 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>収益性の向上</p> <p>⇒主力商品であるキビナゴバラ凍結の安定的な生産と作業効率の向上</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 2.7 億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高 2.0 億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮魚加工商品(冷凍フィレ等)を「五穀」系列チェーン店に出荷 ・春の鯛フェアで宿毛市をPR(系列店舗:3/7~5/15) ・タイ、イサキ等の粕漬けのセットをネット販売

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 民間企業との連携による水産物の販路拡大(宿毛市・大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくも湾漁業協同組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は前年度を上回って推移。(H24:1.9億円) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の確保(H25.6月:20名) ⇒ハローワークで募集中(4~5名の雇用を募集中) <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚供給高1.19億円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚供給高1.03億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(H25.6:11名)と雇用募集中(3名) ・鮮魚を使用した加工(惣菜)商品の製造出荷が順調 ・提携先店舗に加えて、新たなチェーン店(とり鉄等)にも取引開始 ・H24.4~H25.3月の「仕入れ金額」と「販売金額」は前年同期の4.1倍と2.2倍に増加 ・工場はフル稼働の状況 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原魚の安定確保 ⇒安価な時期に購入して冷凍保存(すくも湾漁協の新冷凍施設を活用)
<p>■No. 21 直七の生産、加工、販売の促進(宿毛市)(再掲)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合 ・直七の里(株) 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量100t <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七果実生産量70t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で1名を雇用 ・取引企業数約100社(商談中含む) ・新商品(直七カクテル:田野町濱川商店)の試飲会 7/5:てんこす、宿毛市椰子、7/5~7:まるごと高知 ・直七の日(10/7)にイベント予定 ・H24の搾汁は25.3t(H23の154%)に増加 ・直七マダイ(すくも湾漁業協同組合と連携) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搾汁施設の稼働率向上 ⇒直七以外の搾汁を実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 22 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり(宿毛市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)与力 ・幡多美味工房 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発8アイテム <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発10アイテム <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(1名雇用で計2名) ・地域の食材を使用した新商品の開発 ・オリジナルの商品(野菜ジャム:なす、かぼちゃ、トマト)を開発し、自社販売ルートで12月から販売 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売促進 ⇒県内量販店での催事参加
<p>■No. 24 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)土佐清水元気プロジェクト ・土佐清水市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)70人 ・地元農産物等の活用100t ・売上額2.5億円 <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む)56人 ・地元農産物等の活用120t ・売上額1.8億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外等の催事での販促PR活動(東京3回、大阪2回、県内14回) ・産業振興センターの経営革新計画支援事業の活用によるOEM生産の継続→5社、6アイテムが完成 ・日本経済新聞NIKKEIプラス1(6/22付)「何でもランキング」(取り寄せ魚介丼)で「土佐の清水さば漁師漬け」が全国1位を獲得(8月末現在 約3,000セットを受注) ・新商品の開発・販売(ドレッシングシリーズ5品) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 売れ筋商品の販路拡大 ⇒競合する商品が多い中での販路拡大を行っていくための戦略づくり

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 25 地元農産物を使った商品開発事業(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 15 アイテム <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 13 アイテム <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントでの販促活動(5回) ・新商品(ユズの塩ダレ)の販売 ・新規プロジェクト(四万十ギョーザ)の推進 ・ぶしゅかんどリンク、ボン酢のテレビCM放送(7月~9月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>販路の拡大</p> <p>⇒新商品の開発、各種イベント等でのPR</p>
<p>■No. 27 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト(四万十市)(再掲)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)しまんと美野里 ・四万十川を良くする会 ・四万十市 ・西土佐商工会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 8t ・原材料(生栗)の仕入量 12t <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗加工品製造量 6t ・原材料(生栗)の仕入量 10t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品新サービス開発支援事業(全国商工会連合会)を導入し、アドバイザーの招聘、新商品の開発 ・県内企業への営業活動 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原材料の確保</p> <p>⇒集荷の継続実施</p> <p>出荷まで至っていない栗の発掘(新規開拓、栽培管理、収穫支援等)</p> <p>J A等関係機関との協議</p>
<p>■No. 33 黒潮印の商品開発(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町 ・黒潮町特産品開発推進協議会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産協売上 3,000 万円 ・サトウキビ栽培面積 350a ・体験者数 500 人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産協売上 1,600 万円 ・サトウキビ栽培面積 360a ・体験者数 50 人

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 36 水産物加工施設整備事業(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有) 土佐佐賀産直出荷組合 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町単産業推進補助事業交付決定: 3件 ・サトウキビ栽培面積 354 a (昨年並み) ・らっきょうの黒糖漬けがモンドセレクション銀賞受賞 ・新産業創造事業開発メンバーによる缶詰、スイーツ等の試作品を約 30 種類製造 ・ラボ(商品の開発研究から製造までの機能を有する施設)の施設整備の検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>特産品開発推進協議会の売上増 ⇒新商品の開発によるアイテムの充実 学校給食への供給(漬物、らっきょう等)を検討</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用 5 名 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用 3 名 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外百貨店等の催事出展(6回) ・裕毛屋(台湾)の黒潮町フェア、高知県フェアに出展 ・新商品の開発 ・かたくちいわしの魚醤の仕込み(4月) ・産業振興アドバイザーの申請(ビジネスプランの作成支援) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設の規模拡大 ⇒加工施設の新設について、産振補助金の活用を検討
<p>地域再生への総合的な取組</p> <p>■No. 23 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)(土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐食(株) ・土佐清水市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む) 200 人 ・地元水産物の活用 2,800t ・売上額 15 億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者(臨時・パートを含む) 200 人 ・地元水産物の活用 3,300t ・売上額 17 億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外展示会等への参加(東京 2 回、大阪 2 回) ・原魚取扱量 1,500 t (5 月末) ・新商品(食品)の開発、販売(1 アイテム)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 29 西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市 ・西土佐商工会 ・地域事業者等 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>食品の更なる販路拡大 ⇒新商品の開発及び販促活動</p> <p>原魚の確保 ⇒漁協、加工組合、加工業者、行政が一体となった対策の検討</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品数 14 商品 ・雇用者数 正規 2 人 + α <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品数 15 商品 ・雇用者数 正規 2 人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で 2 名の雇用継続(既存直販市) ・道の駅基本計画・基本設計書策定 ・道の駅整備検討会の開催 ・地域内各事業者による商品開発 ・道の駅詳細設計の発注(9月中旬予定) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>運営体制の構築 ⇒道の駅整備検討会、幹事会で検討</p>
<p>■No. 30 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)(大月町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一財)大月町ふるさと振興公社 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上額 2.5 億円 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上額 2.0 億円 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(移住関連 1 名、情報発信 1 名の計 2 名) ・H25. 4. 1 から一般財団法人の認可 ・販売額の向上(H23: 1.77 億円→H24: 1.81 億円) ・入客数は、123,311 人(前年同期の 100.5%)と微増 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>外商の拡大 ⇒町内の他事業者と「大月まるごと販売プロジェクト」を立ち上げ連携して販売促進</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 佐賀地区の地域資源を活用した拠点 ビジネスの推進(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者数 正規1名、パート7名 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者数 パート10名 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅整備事業の産振補助金交付決定(5/10) ・道の駅整備工事発注(～1/31) ・道の駅の名称決定(「なぶら土佐佐賀」) ・道の駅ワーキング委員会を開催(4月～8月)し、直販部門の仕組みの確立や黒潮一番館との連携等について協議 ・商工会事業によるアドバイザーの招聘(第1回:6/24年3回を予定) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>道の駅の運営体制の構築、黒潮一番館との連携 ⇒ワーキング委員会において検討(アドバイザーの活用)</p>
<p>滞在型・体験型観光の推進</p> <p>■No. 37 幡多広域における滞在型・体験型観光 の推進(幡多地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(社)幡多広域観光協議会 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入数4,000人 ・一般旅行受入数30,000人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入数1,000人 ・一般旅行受入数5,000人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の受入(7校 529人)の受入 ・藤沢アドバイザーによる民泊・インストラクター研修の開催(民泊:4/25～26 34名、インストラクター:6/15～16 22名) ・地域博覧会の名称が「楽しまんとはた博」に決定(4/8実行委) ・実行委員会2回、企画委員会4回開催 ・誘客キャラバン2回実施(中四国、高知市) ・モニターツアー実施 16名(6/20～22、東京、関西、中国エリアのエージェント11名、県外事務所5名) ・マスコミ各社訪問(関西、中四国) ・「楽しまんとはた博」プレイベントの開催(6/29～30) ・「砂と光のアート展」(7/7 黒潮町)開催:4,500人 ・「清水のおきやく・花火大会」(8/2～3 土佐清水市)開催:46,600人

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 38 竜串観光再発見事業 (土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市 ・土佐清水市観光協会 ・NPO竜串観光振興会 ・竜串地区 ・竜串自然再生協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かげろう映画祭り」(8/24～25 四万十市)開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はた博」誘客活動(特に個人客) ・受入観光客の増 <p>⇒「はた博」で造成したイベントメニュー、体験メニュー(39プログラム)のブラッシュアップ</p> <p>さらなる市町村の連携体制の強化</p> <p>教育旅行の販促活動の強化</p> <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 12.5万人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数 11万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO竜串観光振興会による海のギャラリーの管理運営(継続した取組) ・ふるさと雇用事業で1名の雇用継続 ・トイレ(3ヶ所)の改修(8/3完成)(県補助金活用) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>地域資源を活かした具体的な戦略展開</p> <p>⇒地区全体の将来ビジョン創造、受入体制の充実</p>
<p>■No. 39 土佐清水まるごと戦略観光展開事業 (土佐清水市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(社)土佐清水市観光協会 ・地域活動団体 ・土佐清水市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者数・入込客数 82万人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者数・入込客数 80万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で2名の雇用継続 ・「ジョン万海の元気まつり」の開催(GWイベント:5/3～4 3,500人、海の日イベント:7/21 600人) ・香港国際旅遊展に「四国の秘境」として出展し、現地旅行者や一般来場者にPR(6/13～6/16) ・ジョン万次郎資料館の名誉館長に「ビビる大木」さんが就任(4/1) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成</p> <p>⇒「はた博」で造成した体験メニュー等のブラッシュアップ</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 40 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進(四万十市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんプロジェクトチーム ・四万十市 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光商品(体験メニュー)開発数100体験 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光商品(体験メニュー)開発数83体験 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十花絵巻の開催(菜の花、つつじ、桜、花菖蒲、紫陽花、紅葉(予定)) ・ドラマ効果の活用策として「四万十川恋のぼり」、「四万十絵馬」を実施(4/1~) ・サイクルイベントの開催(4/14 グルメフوند幡多 40人、5/12 奥四万十チャリーナと走る自転車散策 12人、6/8 奥四万十チャリーナ・イヌガイライダーズ交流ライド 14人) ・サイクルトレインの運行開始 <ul style="list-style-type: none"> 中村~窪川:9月~12月 7回 江川崎~窪川(にゃんよ号延伸):9月~10月 2回 ・四万十ドラゴンライド(11/3~4)募集開始 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>通年・滞在型観光に向けた観光商品の開発・ブラッシュアップ</p> <p>⇒テレビドラマのロケ地を活かした観光客の誘致 愛媛県と連携したサイクルイベント等県境連携の強化</p>
<p>■No. 42 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進(黒潮町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO砂浜美術館 ・黒潮町 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数60万人 <p>[H25 到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入込客数69万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Tシャツアート展開催(5/3~5/8 16,614人) ・砂浜美術館モニターツアー 雑誌編集者向け(6/19~20 5人) ・民泊受入衛生講習会(5/21 10人) ・スポーツ合宿、大会の招致(2,063人 町内延宿泊数2,849泊) ・星降る砂浜美術館 砂と光のアート展開催(7/7 砂像づくり参加者:260人、来場者:4,500人) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>宿泊観光客の増</p> <p>⇒スポーツ大会、合宿の誘致活動の強化</p>

②上記以外で特記すべき取組 特になし

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費 (補助金額)
■No. 15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業 (宿毛市)	・宿毛湾近海で獲れるブリ・カツオ・キビナゴを活用し、消費者ニーズに基づく商品開発と販売促進 (水産加工施設 1 式の整備等)	60,262 (30,131)
■NO. 35 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進 (黒潮町)	・道の駅 (「なぶら土佐佐賀」) の施設整備	168,531 (50,000)
■NO. 17 宗田節の販路拡大に向けた取組 (土佐清水市)	・宗田節商品の製造における作業効率と生産能力の向上を図るため、「充填機」、「賞味期限等の印字機」、「金属検出器」を導入	11,592 (7,728)
■NO. 2 洋ランのブランド確立・流通促進事業 (宿毛市)	・宿毛市並びに県内の洋ラン農家が新たな組織を立ち上げ、各生産者が生産した洋ラン商品を一元的に集荷・パッケージ化し、既存流通市場の他に直接小売店や消費者にも販売	23,554 (10,915)

3 地域アクションプランの追加、修正、削除 (予定) 項目

[追加] なし

[修正] なし

[削除] なし

4 県民参画に向けた取組

- ・幡多地域のパネル展示 (4/19~5/2 : 県庁 1 階)
- ・北郷集落活動センターへの支援 (4/20 開所式 : 旧北郷小学校)
- ・中村商工会議所青年部総会で産業振興計画、地域 A P 概要説明 (4/23)
- ・幡多信用金庫との包括協定連絡会 (4/24)
- ・橋上地区集落活動センター説明会 (4/24 : 神有多目的集会所)
- ・三原村集落活動センター推進協議会設立 (5/14 : 構造改善センター)
- ・高知県技術・市場交流プラザで産業振興計画の概要説明 (幡多地区 : 5/22)
- ・西土佐商工会総会で産業振興計画、地域 A P の概要説明 (5/24)
- ・高知県産業振興計画シンポジウム (5/24 : いの町すこやかセンター)
- ・大宮集落活動センターへの支援 (5/26 開所式 : 株式会社大宮産業・旧大宮小学校)
- ・四万十市との産業振興計画勉強会 (5/31 : 四万十市役所)
- ・高知県産業振興計画シンポジウム (6/7 : 津野町酒蔵ホール「葉山の蔵」)
- ・楽しまんと！はた博イベント「四万十市お祭り広場」(6/29~30)

- ・星降る砂浜美術館 砂と光のアート展開催 (7/7)
- ・清水のおきゃく&花火大会開催 (8/2~3)

5 相談案件：7件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	5/17	医療	幡多地域の病院施設に食材を供給するシステムに関する相談。
2	5/23	起業事案	外国人用パンフ作成事業の起業化相談。
3	5/24	加工技術	食材加工技術（燻製）に関する相談。
4	6/4	農業堆肥	雇用創出目的の農業用堆肥製造に関する相談。
5	6/5	水産	直七真鯛PR促進が可能な事業の相談。
6	6/17	NHKドラマ	NHK高知放送局スペシャルドラマ「はちきん母ちゃん」に関する相談。
7	7/25	水産加工	宗田節加工商品の販売促進に関する相談